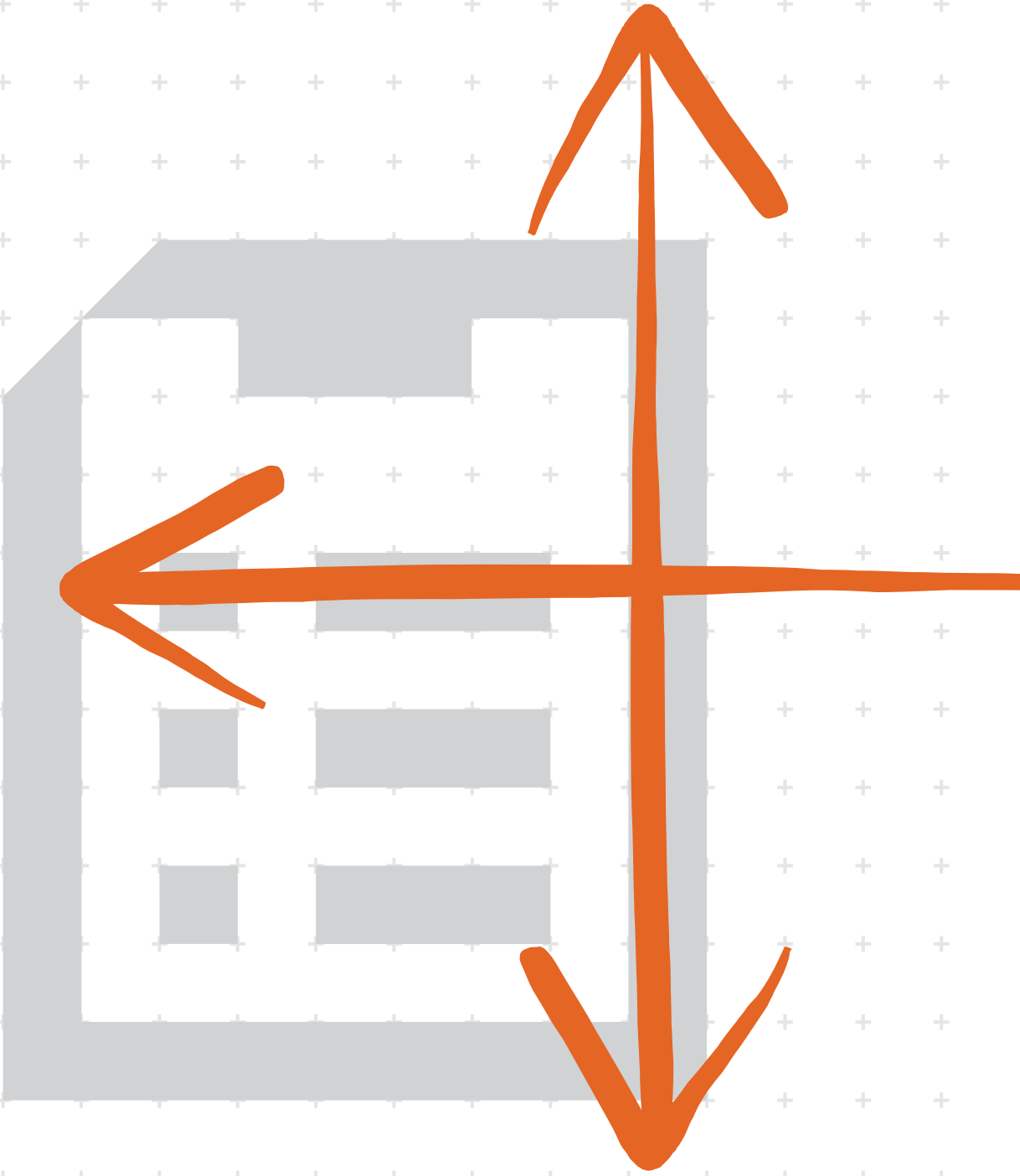
kyoceradocumentsolutions.com

Kyocera Net Viewer
操作手順書

2026.08
KNVUGKDJA6130_01



法律上の注意事項

本書のすべて、または一部を許可なく複製することは禁じられています。

本書に含まれる情報は、予告なく変更される場合があります。

ここに記載された情報に関係なく、本製品の使用に伴って生じたいかなる問題にも、当社は責任を負いません。

商標について

- Microsoft、Windows、および Windows Server は、米国およびその他の国における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。
- Mac および macOS は、米国およびその他の国における Apple Inc. の商標です。
- Linux は、米国およびその他の国における Linus Torvalds の登録商標または商標です。
- 本書で使用されているその他のブランド名および製品名はすべて、それを所有する各企業の登録商標または商標です。本書では、™ および ® の表記は使用しません。

目次

第 1 章 : 製品概要

ドキュメント 1-1
規則 1-1
システム要件 1-1

第 2 章 : 作業の開始

起動およびログインする 2-1
ワークスペース 2-1
　新規ワークスペースを追加する 2-1
　既存のワークスペースを開く 2-2
　ワークスペースのインポート/エクスポート 2-2
　最近使用したワークスペースを表示または復元する 2-3
デバイスの検出 2-3
　デバイスを追加する 2-3
　自動デバイス検出をスケジュールする 2-5
　検出からデバイスを除外する 2-5
ユーザーインターフェイス 2-5
管理者ログイン 2-6
オプション 2-7
　メール設定を編集する 2-8
　認証設定を編集する 2-8
　デフォルトのデバイスポーリング設定を編集する 2-9
　SNMP トラップ設定を編集する 2-9
　デフォルトの部門ポーリング設定を編集する 2-10
　ログの管理設定を編集する 2-10
　プロキシー設定を編集する 2-10
監査ログレコードを表示する 2-11

第 3 章 : ビュー

マイビュー 3-1
　カスタムビューを追加する 3-1
　新規フォルダーを追加する 3-2
　フォルダーまたはビューの名前を変更する 3-2
　デバイス、部門、またはホストを削除する 3-3
　ビューを更新し保存する 3-3
　ビューを複製する 3-3
　ビューを削除する 3-3
デフォルトビュー 3-4
マップビューをカスタマイズする 3-5
表示、リスト、およびデバイス情報をエクスポートする 3-5

ビューを更新する....3-6
フォルダーレポートを作成しエクスポートする....3-6
検索....3-7
検索で情報を探す....3-7
アドバンストサーチで情報を探す....3-8

第 4 章 : デバイス

デバイスプロパティーを表示する....4-1
デバイスのパスワードをインポート....4-2
パスワードのインポートを準備....4-3
パスワードをファイルからインポート....4-4
デバイスのホームページを表示する....4-5
デバイスプロパティーのレポート....4-5
デバイスプロパティーのレポートを作成する....4-5
デバイスプロパティーのレポート設定を表示し変更する....4-5
証明書を管理する....4-6
1 台のデバイス上で証明書を管理する....4-6
複数のデバイス上で証明書を管理する....4-9
アドレス帳....4-12
個人アドレスを追加する....4-12
グループを追加する....4-13
グループに個人アドレスを追加する....4-14
ワンタッチキー....4-14
個人アドレスとグループをコピーする....4-16
アドレス帳リストをエクスポートする....4-16
アドレス帳を検索する....4-16
S/MIME 証明書を管理する....4-17
部門別アドレス帳....4-18
部門別アドレス帳を追加する....4-18
共有アドレス帳からコピーする....4-19
デバイスユーザー....4-19
デバイスユーザーを追加する....4-20
デバイスのユーザーリストをエクスポートする....4-21
デバイスユーザリストを検索する....4-21
簡単ログインキーを設定する....4-21
簡単ログインキーリストを検索する....4-22
ジョブ....4-22
ジョブの詳細を表示する....4-23
ジョブ履歴をエクスポートする....4-23
ジョブリストを検索する....4-23
バックアップと復元....4-24
ジョブ保留....4-24
保留ジョブを印刷する....4-24
保留ジョブリストを印刷する....4-24
保留ジョブを削除する....4-25
保留ジョブを検索する....4-25
文書ボックス....4-25
文書ボックスを追加する....4-25
文書ボックスのリストをエクスポートする....4-27
文書のプロパティーを表示する....4-27
文書を表示する....4-28
文書をダウンロードする....4-28
文書ボックスを検索する....4-28
文書ボックスを他のボックスに移動する....4-29
スタンプボックス....4-29
バーチャルメールボックス....4-30

バーチャルメールボックスを追加する....4-30
バーチャルメールボックスを検索する....4-30
バーチャルメールボックスリストをエクスポートする....4-31
バーチャルメールボックス拡張機能オプションを設定する....4-31
デバイスアプリケーション....4-31
アプリケーションを 1 台のデバイスで管理する....4-32
アプリケーションを複数のデバイスで管理する....4-33
アプリケーションを検索する....4-38
Cloud access を使用....4-38
クラウド接続を追加....4-38
クラウド接続を削除....4-39
クラウド接続設定の編集....4-39
デバイス通知を設定する....4-39
デバイス通信設定を構成する....4-40
拡張機能メニュー....4-42
デバイスマルチセット....4-44
デバイスまたはデバイスネットワークインターフェイスを再起動する....4-48
オプション機能を管理....4-48
バックアップの管理と復元....4-50
ファームウェアをアップグレードする....4-51
認証設定を構成する....4-52
ネットワークグループ....4-54
用紙グループ....4-56
サイズプロファイルリスト....4-57
プロファイルを管理....4-58
TCP/IP データを送信する....4-59
リモートサービスを有効にする....4-60
デバイスを登録する....4-61

第 5 章 : 部門

デバイスを管理する....5-1
部門デバイスを追加する....5-1
新規部門を作成する....5-1
部門とデバイスを表示する....5-2
部門のプロパティーを表示する....5-2
現在の部門の詳細をエクスポートする....5-3
特定のデバイスまたは部門の詳細をエクスポートする....5-4
カウンターレポートを追加する....5-5
部門カウンターステータス通知を設定する....5-6
デバイスの部門管理設定を構成する....5-6
部門のマルチセット....5-7

第 6 章 : ホスト

ホストの検出....6-1
ホストサービスを有効にする....6-1
ホストを追加する....6-2
自動ホスト検出のスケジュールを設定する....6-3
検出からホストを除外する....6-4
キューを追加する....6-4
キュー名を編集する....6-6
プリンタードライバーの管理....6-6
プリントスプーラーにクライアント接続を許可する....6-6
リモート管理の例外を許可する....6-7
プリンタードライバーをインストールする....6-7

プリンタードライバーをアップグレードする.....6-10
プリンタードライバーをアンインストールする.....6-11
追加のプリンタードライバーバージョンをインストールする.....6-11
プリンタードライバーまたは印刷キューを表示する.....6-12
ホストログイン設定を変更する.....6-12
ドメイン管理者のログイン設定を選択する.....6-12
ホスト情報をエクスポートする.....6-13
デバイス設定を構成する.....6-13

1 製品概要

[Kyocera Net Viewer] アプリケーションを使用すると、ネットワーク上のデバイス情報を整理および監視できます。

ドキュメント

本書は、アプリケーションの機能と設定の使用方法について説明します。

お使いのデバイスによっては、機能およびオプションが異なる場合があります。

本書は、システム管理者と他のすべてのユーザーを対象としています。

規則

本ガイドでは、次の規則を使用します。

- メニュー項目とボタンには、**[メニュー項目/ボタン名]** を使用します。強調が必要な場合も太字を使用します。
- 画面、テキストボックス、およびドロップダウンメニューのタイトルは、画面上で表示されるとおりに表記します。
- ドキュメントのタイトルには、『』を使用します。
- ユーザーが入力するテキストまたはコマンドは、異なるフォントまたはテキストボックスにテキストとして示します。次のような例があります。

1. コマンドラインに `net stop program` と入力します。
2. 以下のコマンドを含むバッチファイルを作成します。

```
net stop program
gbak -rep -user PROGRAMLOG.FBK
```

- アイコンは、特定の情報に注意を向けるために使用されます。次のような例があります。

知っておくと便利な情報を示します。

知っておく必要のある重要な情報を示します。これには、手順が適切に行われなかった場合のデータ消失などが含まれます。

システム要件

この製品に付属している『リリースノート』または『ReadMe』を参照してください。

2　作業の開始

デフォルトおよびカスタムのビューからさまざまな機能を使用して、ネットワーク上のデバイス情報を整理し、監視できます。開始するには、ログインし、ネットワーク上のデバイスを検出してワークスペースをセットアップします。

起動およびログインする

1. アプリケーションを開きます。
2. 次のいずれかを行います。
   - 管理者権限を持っている場合、ログイン情報の入力が必要になる場合があります。

     アプリケーションでは、最後に保存したワークスペースが開きます。
   - 管理者権限を持っていない、または初めてアプリケーションを開く場合は、以下を行います。

     ネットワーク管理者によるログイン情報の設定が必要な場合があります。

     a. ワークスペースフォルダーの場所を指定して、**[OK]** を選択します。

     b. ワークスペースにデバイスを追加します。詳細については、『デバイスの検出』の項を参照してください。

[ファイル] > **[ウィンドウを閉じる]** を選択しても、アプリケーションは引き続きシステムトレイで実行されます。

ワークスペース

デバイス情報と設定を収集し、表示します。ワークスペースのデータは、デバイスリストまたはマップ、および画面のナビゲーションペインに表示されます。

ワークスペースは、ログイン情報で識別されます。ユーザーがアプリケーションを開くと、そのユーザーの履歴から最後に使用したワークスペースが自動的に開きます。ユーザーがアプリケーションを閉じると、ワークスペースは自動的に保存されます。必要なワークスペースは 1 つだけですが、異なるデバイスが複数の場所にある場合は、追加のワークスペースを定義することもできます。

新規ワークスペースを追加する

1. **[ファイル]** > **[新規のワークスペース]** に移動します。
2. **[はい]** を選択します。

3 ワークスペースフォルダーの場所を指定します。

4 **[OK]** を選択します。
アプリケーションが再起動します。

既存のワークスペースを開く

本アプリケーションの旧バージョン用に作成されたワークスペースは、新しいバージョン用に変換され、元に戻すことはできません。

1 **[ファイル]** > **[ワークスペースを開く]** に移動します。

2 **[はい]** を選択します。

3 ワークスペースフォルダーの場所を指定します。

4 **[OK]** を選択します。
アプリケーションが再起動します。

ワークスペースのインポート/エクスポート

ワークスペースのファイル名拡張子は、インポートソースによって異なります。

インポートソース	ファイル名拡張子
バージョン 4.x	.kv3
バージョン 5 以降	.kvx
KM-Net for Accounting	.xml

古いバージョンからデバイスデータとユーザーインターフェイス情報を再利用するには、古いワークスペースをインポートし、新しいワークスペースに変換します。他のユーザーとワークスペースを共有している場合、アプリケーションは、データ整合性を保護するため、管理者を含む他のユーザーがワークスペースにアクセスできないようにします。

ファイルを新規のワークスペースへインポートする

1 **[ファイル]** > **[新規のワークスペースへインポート]** に移動します。

2 インポートするファイルを参照します。

ファイルの拡張子は .kvx、.kv3、または .xml である必要があります。

3 ワークスペースフォルダーの場所を指定します。

4 **[OK]** を選択します。

ワークスペースをエクスポートする

1. **[ファイル]** > **[エクスポート]** > **[ワークスペース]** に移動します。
2. ファイル名を入力して、エクスポート先を指定します。
3. **[保存]** > **[OK]** を選択します。

最近使用したワークスペースを表示または復元する

直近 5 つのワークスペースのみがリストに表示されます。

1. **[ファイル]** > **[最近使用したワークスペース]** に移動します。
2. リストからワークスペースを選択して、**[はい]** を選択します。

アプリケーションが再起動します。

デバイスの検出

この機能を使うと、デバイスがあるかどうかネットワークを確認することができます。新しいデバイスが検出されると、アプリケーションはそのデバイスに関する情報でデータベースを更新します。1 つまたは複数のデバイスを手動で検出するか、設定したスケジュールに基づいて自動検出を実行することができます。また、デバイスを検出から除外することもできます。

アプリケーションを初めて起動する、または新規ワークスペースを開いた際に、「デバイスを追加」ウィザードが自動的に起動されます。

デバイスを追加する

1. **[デバイス]** > **[検出]** > **[デバイスを追加]** に移動します。
2. オプションを選択して、**[次へ]** を選択します。

エクスプレス

あらかじめ定義された通信設定を使用して、ローカルネットワーク内のデバイスを検出します。

カスタム

a. 次の検出オプションから選択します。

オプション	操作
ローカルネットワーク上で検索 ドメイン内の IPv4 と IPv6 アドレスを使用して、ローカルネットワーク上のすべてのデバイスをスキャンします。	次のローカルネットワークの検出タイプから選択します。 • IPv4 • IPv6
IP アドレスで検索 ドメイン内の特定のアドレスを使用してデバイスをスキャンします。	次の方法から選択します。 • IPv4 もしくは IPv6 アドレス、またはホスト名を入力し、**[追加]** を選択して「選択されたターゲット」リストに追加します。 • **[インポート]** を選択して、IP アドレスリストを使用します。 「選択されたターゲット」リストから IP アドレスまたはホスト名を削除するには、IP アドレスまたはホスト名を選択してから、**[削除]** を選択します。
IP アドレス範囲で検索 ドメイン内の指定の IP アドレス範囲ですべてのデバイスをスキャンします。	IPv4 または IPv6 の開始 IP アドレスと終了 IP アドレスを入力し、**[追加]** を選択して、「選択されたネットワークセグメント」リストに追加します。 IP アドレス範囲を削除するには、「選択されたネットワークセグメント」リストで選択してから、**[削除]** を選択します。

b. 通信設定を構成して、**[次へ]** を選択します。

c. 定期検出のスケジュールを設定するか、**[次へ]** を選択してすぐに開始します。

3 詳細を確認して、**[完了]** を選択します。

自動デバイス検出をスケジュールする

定期的な検出処理を実行するようスケジュールを設定します。デバイスがネットワークに頻繁に追加されたり、削除されたりする場合、定期的に検出を実行するとデバイスデータベースを最新の状態に保つことができます。

1. **[デバイス]** > **[検出]** > **[自動検出]** に移動します。
2. 「スケジュールされている検出」ダイアログボックスで、次のいずれかを行います。
   - 新しい検出モードを作成するには、**[追加]** を選択します。定期検出のスケジュールを設定して、**[完了]** を選択します。
   - 検出のスケジュールを削除するには、**[削除]** を選択します。
   - 既存の検出モードを編集するには、**[プロパティー]** を選択します。定期検出のスケジュールを設定して、**[変更を適用]** を選択します。
3. **[閉じる]** を選択します。

検出からデバイスを除外する

セキュリティーを目的として、デバイスを検出処理から除外し、ビューから削除できます。除外されたデバイスの情報は、アプリケーションから削除されません。

1. 任意のデバイスビューまたは部門デバイスビューから、除外するデバイスを選択します。
2. 選択したデバイスを右クリックし、**[デバイスの削除]** を選択します。

削除されたデバイスを追加するには、**[デバイス]** > **[検出]** > **[除外されたデバイス]** に移動し、1 つ以上のエントリーを選択して、**[デバイスを含める]** を選択します。

ユーザーインターフェイス

ユーザーインターフェイスには、ネットワーク上のデバイス、デバイスの部門、およびデバイスドライバーがインストールされるホストコンピューターについての情報が表示されます。

メインメニュー

メインメニューはウィンドウの一番上にあります。このメニューでアプリケーションに対する基本的な操作を行います。

ツールバー

各ビューはメインメニューの下にツールバーを表示します。ツールバーには、デバイス、部門、ホストを管理および編集するタスク等、各ビューでよく使われるタスクのアイコンが含まれます。各アイコンの上にマウスのカーソルを合わせて、対応するタスクを表示します。

マイビュー

マイビューは、デフォルトビューまたは他のマイビューから作成できるリストまたはマップです。マイビューはツリー形式で整理され、フォルダーとマイビ

ューノードが表示されます。マイビューを使用して、表示する情報のタイプをカスタマイズします。

マイビューでカスタムビューを選択すると、別のペインにビュー (リストまたはマップ) が表示されます。フォルダーを作成して、マイビューを整理および管理します。



マイビューに情報を追加するには、表示メニューに移動し、**[ダイナミックビューを追加]** または **[選択を使用してマニュアルビューを追加]** を選択します。

デフォルトビュー

デフォルトビューは、読み取り専用の標準のリストまたはマップビューです。特定のデフォルトビューを選択すると、別のペインにビュー (リストまたはマップ) が表示されます。一部のデバイスビューオプションは、リストビューでのみ使用でき、マップビューでは使用できません。

リストまたはマップビュー

選択したビューに応じて、デバイス、部門、またはホストのリストがウィンドウ上に表示されます。カスタマイズ可能なこのリストは、ユーザーが整理できる情報を提供します。「デバイス」のリストビューの各行を展開して、詳細な情報を表示します。マップビューを使用してカスタムマップの背景にデバイスを表示することもできます。



ステータスアイコンを識別する

デバイスおよびホストのリストビューにあるステータスアイコンには、各デバイスのステータスに関する説明が表示されます。三角形のアイコンを選択して行を展開すると、ステータスについての説明が表示されます。

リストビューをカスタマイズする

ビューをカスタマイズし、マイビューで保存されたデバイス、部門、およびホストのリストビューの情報を整理します。ビューをカスタマイズした後、**[ビューの更新]** を選択します。デフォルトビューに対する変更は、ビューを終了した後は保存されません。

管理者ログイン

一部のデバイスでは、選択した機能にアクセスするには、管理者認証が必要です。お使いのデバイスによっては、使用可能な機能が異なる場合があります。メニューから機能を選択する際、次のいずれかを入力するよう求められる場合があります。

- Command Center 管理者パスワード
- 管理者ログインとパスワード (「ローカル認証を使用」のオプションを含む)
- 部門管理者コード
- モデル固有の認証：

モデル名	ユーザー名	パスワード
MA2000w PA2000w	Admin	**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[デバイスネットワーク設定]** > **[SNMP v1/v2c]** で、ライトコミュニティー名を入力します。 • デフォルトのライトコミュニティー名は、**[public]** にセットされています。お使いのデバイスに安全にアクセスできるようにするには、デフォルト名を変更します。 • 1 台または複数のデバイスのライトコミュニティー名や他の SNMP 設定を変更した場合、他のドライバーやユーティリティーアプリケーションに含まれているデバイスの SNMP 設定を確認する必要があります。

複数のデバイスに対して操作を行うと、管理者のログイン用のダイアログは表示されません。ログインのオプションは、通信設定ダイアログボックスのログインセクションで設定する必要があります。

オプション

アプリケーションの以下のオプション設定を構成します。

設定の変更後、お使いのプリンターを再起動するよう求められる場合があります。

オプション	説明
[メール設定]	メールサーバー、認証、および送信者情報を設定します
[認証]	コンピューターの管理者権限を持っていないユーザーに対して、ローカルパスワードを設定または変更します
[デフォルトのデバイスポーリング設定]	新規デバイスのデフォルトのデバイスポーリング設定を特定の間隔で指定します
[トラップ]	トラップサーバーの設定を構成します
[デフォルトの部門ポーリング設定]	新規デバイスの部門カウンターポーリング設定を指定します

オプション	説明
[ログの管理設定]	監査ログを削除するスケジュールを設定します
[プロキシー設定]	リモートネットワーク上のデバイスと通信するためのプロキシーサーバー設定を選択します

メール設定を編集する

1. **[編集]** > **[オプション]** に移動します。
2. **[メール設定]** を選択します。
3. 次を行います。
   a. ホストで、SMTP (メール) サーバー名を入力します。
   b. ポートで、ポート番号を入力します。
4. 必要に応じて、**[認証が必要]** を選択し、ログイン情報を入力します。
5. 送信者名と送信者のアドレスを入力します。
6. SMTP サーバーへのデバイス接続をテストするには、**[接続のテスト]** を選択します。

   - エラーが発生する場合、ホスト名とポート番号を修正して、接続のテストを繰り返します。
   - 接続のテストは、ログイン情報の有効性を確認しません。

7. **[OK]** を選択します。

認証設定を編集する

この設定を有効にするには、管理者としてアプリケーションを実行する必要があります。

1. **[編集]** > **[オプション]** に移動します。
2. **[認証]** > **[ローカルパスワードを有効にする]** を選択します。
3. ローカルユーザーのパスワードを入力し、確認します。
4. **[OK]** を選択します。

   最小要件を満たしていないパスワードでも保存できます。

デフォルトのデバイスポーリング設定を編集する

この設定では、新規デバイスのデフォルトのポーリング設定を設定できます。

デフォルトの値を変更しても、以前に追加したデバイスの設定には影響を与えません。

1. **[編集]** > **[オプション]** に移動します。
2. **[デフォルトのデバイスポーリング設定]** を選択します。
3. 次の設定に間隔を指定します。
   - ステータスのポーリング
   - カウンターのポーリング
   - トナー量のポーリング
4. **[OK]** を選択します。

SNMP トラップ設定を編集する

SNMP プロトコルは、ネットワーク環境内で管理情報を提供および転送します。エラーが発生した場合、デバイスは自動的にトラップを生成し、あらかじめ定義されたトラップ受信者にエラーメッセージを送信します。

トラップサーバーは、アプリケーション内で実行される SNMP トラップパケットレシーバーです。トラップパケットを受信するには、トラップサーバーを起動し、デバイス上で SNMP トラップを構成します。

TCP ポート 162 が使用可能で、ファイアウォールで開放されている必要があります。

1. **[編集]** > **[オプション]** に移動します。
2. **[トラップ]** を選択します。
3. 次のいずれかを行います。
   - トラップサーバーが実行されていない場合、**[開始]** を選択します。

     サーバー接続が失敗する場合は、アプリケーションのログファイルでエラーメッセージを確認します。エラーを解決して、トラップサーバーを再起動します。
   - トラップサーバーが実行されている場合、**[停止]** を選択します。
4. トラップコミュニティー名を入力します。
   これにより、アプリケーションで保存されたトラップコミュニティーと同じコミュニティー名を持つ SNMP トラップパケットを受信できます。
5. 必要に応じて、**[プログラムの起動時にトラップサーバーを自動的に起動する]** を選択します。

6 **[OK]** を選択します。

デフォルトの部門ポーリング設定を編集する

1 **[編集]** > **[オプション]** に移動します。

2 **[デフォルトの部門ポーリング設定]** を選択します。

3 **[新規デバイスのデフォルトの部門カウンターポーリング]** を選択して、次を行います。

a) **[部門カウンターのポーリング間隔]** には、ポーリング情報の定期スケジュールを設定します。

b) 警告レベルを選択します。

4 **[OK]** を選択します。

ログの管理設定を編集する

1 **[編集]** > **[オプション]** に移動します。

2 **[ログの管理設定]** を選択します。

3 ログの保存期間を指定します。

4 必要に応じて、**[クリア前にログレコードをエクスポート]** を選択し、フォルダーの場所を指定します。

5 **[OK]** を選択します。

保存されたログレコードのリストを表示するには、**[ファイル]** > **[ログレコードを開き監査]** に移動します。

プロキシー設定を編集する

1 **[編集]** > **[オプション]** に移動します。

2 **[プロキシー設定]** > **[オン]** を選択します。

3 使用する各プロトコルに、プロキシーアドレスとポート番号を入力します。

4 サーバーに認証が必要な場合は、**[認証が必要]** を選択します。ログイン情報を指定します。

5 特定のドメインにプロキシーサーバーを使用しない場合は、「次のドメインにはプロキシーを使用しない」にドメイン名を指定します。

ドメイン名をセミコロンで区切ります。

6 **[OK]** を選択します。

監査ログレコードを表示する

監査ログは、アプリケーションの実行または認証オプションの変更のたびに、自動的に作成または保存されます。

1 **[ファイル]** > **[ログレコードを開き監査]** に移動します。

2 次のいずれかを行います。

- ソート順を変更するには、列ヘッダーを選択します。
- 特定の監査ログを検索します。
- 監査ログレコードを .csv ファイルとして保存するには、**[エクスポート]** を選択します。
- リストを更新するには、**[更新]** を選択します。

3 **[閉じる]** を選択します。

監査ログ保存を構成するには、**[編集]** > **[オプション]** > **[ログの管理設定]** に移動します。

3 ビュー

アプリケーションには次のビューがあります。

ビュー	説明
マイビュー	カスタムビューを作成、変更、または削除できます。
デフォルトビュー	次の読み取り専用ビューが含まれます。 • デバイス • 部門 • ホスト リストの外観をカスタマイズできますが、ビューを終了すると変更は保存されません。

任意のデバイスビューで、**[表示]** を選択することでビュータイプを切り替えることができます。

マイビュー

カスタムビューをセットアップしてフォルダー内のアイテムを整理します。マイビューでは、表示されるデバイス、部門、ホスト、列の順序、列の数、およびその他のビューの設定をカスタマイズします。ビューの変更後に「ビューの更新」を使用して変更を保存します。マイビューにあるビューの管理アイコンを選択すると、オプション設定のメニューが開きます。

カスタムビューを追加する

選択したデバイス、部門、またはホストのカスタムビューを作成し、保存します。カスタムビューは、次のいずれかのビュータイプから追加できます。

デバイス

一般、性能、カウンター、ファームウェア、固定資産、マップ

部門

部門デバイス、部門

ホスト

ホスト、ホストドライバー、ホストキュー

1 希望するビューに応じて、次を実行します。

オプション	操作
ダイナミックビュー ダイナミックビューは、マイビューで作成したデフォルトビューまたはカスタムビューのコピーです。 マイビューでマニュアルビューが選択されている場合、ダイナミックビューを作成することはできません。	**a.** マイビューまたはデフォルトビューから任意のビューを選択します。 **b.** ビューを変更します。 列の順序を変更したり、列を表示または非表示にしたりできます。 **c.** **[ダイナミックビューを追加]** を選択します。
マニュアルビュー マニュアルビューは、既存のビューから選択されたデバイス、部門、またはホストを含むカスタムビューです。 マニュアルビューでは、アドバンストサーチは使用できません。	**a.** 任意のビューから、デバイス、部門、またはホストを 1 つ以上選択します。 **b.** **[選択を使用してマニュアルビューを追加]** を選択します。

2 ビュー名を指定して、**[Enter]** キーを押します。

既存のマニュアルビューの場合、他のデバイス、部門、またはホストを選択して他のビューから移動することで追加できます。

新規フォルダーを追加する

1 **[ファイル]** > **[新規フォルダー]** に移動します。

2 フォルダー名を指定して、**[Enter]** キーを押します。

フォルダーまたはビューの名前を変更する

1 マイビューで、フォルダーまたはビューを右クリックして、**[名前を変更]** を選択します。

2 新しい名前を指定して、**[Enter]** キーを押します。

デバイス、部門、またはホストを削除する

デバイス、部門、またはホストを削除すると、カスタムビューで非表示になります。データベースからアイテムは削除されません。

1. マイビューから、マニュアルビューを選択します。
2. デバイス、部門、またはホストを 1 つ以上選択して、ビューから削除します。
3. **[編集]** > **[ビューから削除する]** を選択します。

> 「ビューから削除する」を選択した後、確認のダイアログボックスは表示されません。

ビューを更新し保存する

マイビューにあるビューを変更すると、そのビューを保存するまでタイトルバーの名前の後にアスタリスクが表示されます。

次のいずれかを行ってから「ビューの更新」を使用します。

- 列の幅または列の順序を変更する、列を追加または削除する。
- **[表示]** > **[表示]** を使用して、ビュータイプを変更する。
- リスト列の情報を並べ替える。

ビューを更新せずに他のビューに切り替えると、変更は保存されません。

1. ビューの変更後、**[表示]** に移動します。
2. **[ビューの更新]** を選択します。

ビューを複製する

1. マイビューで、コピーするビューを右クリックし、**[複製]** を選択します。
2. ビュー名を指定して、**[Enter]** キーを押します。
3. 必要に応じて新しいビューを変更します。

ビューを削除する

1. マイビューで、削除するビューを選択します。
2. **[編集]** > **[削除]** を選択します。

> - 「削除」を選択した後、確認のダイアログボックスは表示されません。
> - 削除したビューは、元に戻せません。
> - デフォルトビューは削除できません。

デフォルトビュー

アプリケーションのデフォルトビューには標準のビューが提供されており、これは削除および変更することができません。

マップビュー以外の任意のビューでは、列を一時的に追加または削除することができます。変更されたビューは、他のビューに切り替えた場合は保存されません。

デバイス

一般ビュー

表示名、ホスト名、モデル名などの一般情報が表示されます。

性能ビュー

両面印刷、メモリー合計、ジョブ履歴など、各種デバイス機能のサポートが表示されます。

カウンタービュー

印刷ページ数合計、スキャンページ数合計、およびファクス印刷ページ数など、ジョブのデバイスカウンターが表示されます。

ファームウェアビュー

システムファームウェア、エンジンファームウェア、スキャナファームウェアなど、デバイスファームウェア情報が表示されます。

固定資産ビュー

MAC アドレス、シリアル番号、および固定資産番号を含む固定資産情報が表示されます。

マップビュー

カスタマイズ可能な背景画像 (オフィスのフロアプランなど) のデバイスアイコンが表示されます。

部門

部門デバイスビュー

部門管理をサポートするデバイスの一般情報およびカウンターを表示します。

部門ビュー

コピー、ファクス、およびスキャンのカウンター合計など、管理対象デバイスの部門情報を表示します。

ホスト

ホストビュー

ネットワークホストコンピューターの一般情報を表示します。

ホストドライバービュー

ホストコンピューターにインストールされたプリンタードライバーを表示します。

ホストキュービュー

ホストコンピューターのデバイスキューを表示します。

マップビューをカスタマイズする

マイビューまたはデフォルトビューのマップビューで、背景画像 (オフィスのフロアプランなど) を追加できます。それに応じて、管理対象のデバイスを配置し、マップビューのサイズを変更できます。

1. マイビューまたはデフォルトビューで、マップビューを選択します。
2. マップの背景を右クリックして、次のいずれかを選択します。

オプション	操作
マップの背景をインポート イメージをインポートして、各デバイスアイコンを希望する位置に移動します。マップは、現在のワークスペースのすべてのマップビューで共有されます。	希望する画像ファイル (.bmp または .jpg) を参照して、**[OK]** を選択します。
拡大、縮小、画面にあわせる マップのサイズを調整します。アプリケーションの画面サイズを変更しても、マップのサイズは変更されません。	次のいずれかを行います。 • **[拡大]** または **[縮小]** を選択してイメージのサイズを固定された間隔で変更します。 • **[画面にあわせる]** を選択すると、全体のイメージが画面内に収まります。 • 50% から 300% の範囲でパーセント値を指定して、**[Enter]** キーを押します。
マップの背景をクリア 背景の画像を削除します。すべてのデバイスアイコンは元の位置に残ります。	このオプションを選択した後、確認のダイアログボックスは表示されません。

「拡大」、「縮小」、「画面にあわせる」、および「マップの背景をクリア」は、マップビューにマップの背景がある場合のみ使用可能です。

表示、リスト、およびデバイス情報をエクスポートする

各種のビューオプションからデバイスについての情報を .xml または .csv ファイルにエクスポートします。

1 任意のビューから、**[ファイル]** > **[エクスポート]** に移動し、次から選択します。

- **[ビュー]**
- **[リスト]**
- **[デバイス]**

お使いのビューによっては、オプションが異なる場合があります。

2 エクスポートの詳細を入力します。

- ファイルの場所
- ファイル名
- ファイルの種類

.csv ファイルへのエクスポートには、UTF-8 エンコードが使用されます。

3 **[保存]** を選択します。

各エクスポートオプションでは、異なる情報が提供されます。各タイプの結果を確認します。

ビューを更新する

デバイスとホスト情報は、ポーリングスケジュールに従って自動的に更新されます。1 つまたは複数のデバイスについて、この情報を手動でいつでも更新できます。

1 任意のホストまたはデバイスビューから、ホストまたはデバイスを 1 つ以上選択します。

2 選択を右クリックして、**[更新]** を選択します。

このオプションは、部門ビューでは使用できません。

ホストまたはデバイスビュー内のすべてのアイテムを更新するには、**[表示]** > **[すべて更新]** に移動します。

フォルダーレポートを作成しエクスポートする

マイビューでフォルダーを作成し、部門デバイスビューまたは部門ビューからカスタムビューを加えると、部門または部門デバイスフォルダーレポートを作成およびエクスポートできるようになります。

部門フォルダーレポート

フォルダーに少なくとも 1 つの部門ビューが含まれていれば、このレポートを作成できます。エクスポートされるレポートには、部門フォルダーレポートダイアログボックスで選択した部門のみが含まれます。

部門デバイスフォルダーレポート

フォルダーに少なくとも 1 つの部門デバイスビューが含まれていれば、このレポートを作成できます。エクスポートされるレポートには、部門デバイスのフォルダーレポートダイアログボックスで選択したデバイスのみが含まれます。

作成されたフォルダーレポートは、.csv または .xml ファイルにエクスポートできます。

1 マイビューでフォルダーを右クリックして、**[フォルダーレポート]** を選択します。

2 **[部門]** または **[部門デバイス]** を選択し、レポートに含める部門またはデバイスを 1 つ以上選択します。

3 **[エクスポート]** を選択します。

4 エクスポートの詳細を入力します。

- ファイルの場所
- ファイル名
- ファイルの種類

5 **[閉じる]** を選択します。

検索

次のオプションを使用して、特定の特徴があるデバイス、部門、またはホストの検索ができます。

- 検索機能は、現在表示されているビューのデータを検索します。別のビューに移動すると、入力した文字列は保存されません。
- アドバンストサーチでは、検索ダイアログボックスで選択した値で、データベース内のすべてのデバイス、部門、またはホストを検索します。

検索で情報を探す

検索では、以下の列またはマップビューで、完全一致または一部一致する用語を検索できます。

デバイス検索

表示名、IP アドレス、ホスト名、およびモデル名

部門検索

部門コード

ホスト検索

ホスト名、ドライバー名、キュー名、IP アドレス、OS 情報

検索機能では、ビューから上記の列が削除されても、削除された列を含めて検索します。別のビューに移動、またはアドバンストサーチを実行すると、結果は保存されません。検索では、展開された情報領域は含まれません。

1 テキストボックスに英数字の検索語を入力します。

入力すると、元のビュー内にあるすべてのデバイス、部門、またはホストのデータを検索します。

2 検索語をクリアするには、「テキストの検索」ボックスの横にあるアイコンを選択します。

テキストボックス内のテキストが削除され、ビューは検索前のデバイス、部門、またはホストの元のリストに戻ります。

アドバンストサーチで情報を探す

アドバンストサーチ機能を使用して、選択した条件と一致する、データベース内のすべてのデバイス、部門、またはホストを検索します。別のビューに変更、または別の検索を実行するまで、結果は表示されます。

1. デフォルトビューで、ビューを選択します。

   アドバンストサーチ機能はホストドライバービューおよびホストキュービューでは使用できません。

2. **[編集]** > **[アドバンストサーチ]** に移動します。
3. 「アドバンストサーチ」ダイアログボックスで、検索ロジックを選択します。

   すべての検索条件に合致する

   このオプションは、「条件」で指定した検索語とすべてが一致するデバイス、部門、またはホストを検索します。

   いくつかの検索条件に合致する

   このオプションは、「条件」で指定した検索語と 1 つ以上一致するデバイス、部門、またはホストを検索します。

4. 条件では、検索で探す機能またはプロパティーを選択します。

   プロパティー

   プロパティーリストごとに、プロパティーを 1 つ選択します。6 つのプロパティーリストが使用できます。お使いのデバイスによっては、プロパティーが異なる場合があります。

   条件

   指定できる条件は、選択したプロパティーによって異なります。

   値

   ボックスに値を入力または選択します。

5. **[OK]** を選択します。

すべてのデバイス、部門、ホストを検索し、選択した条件に一致するデバイス、部門、ホストを表示します。マップビューでは、オフィスマップに保存された場所にデバイス検索結果が表示されます。

4 デバイス

ネットワーク上のデバイスを管理します。

デバイスの機能についての詳細は、デバイスの『使用説明書』を参照してください。ドライバーの機能についての詳細は、『プリンタードライバー操作手順書』を参照してください。

デバイスプロパティーを表示する

選択したデバイスに関する設定およびステータス情報を表示します。

1 任意のデバイスビューから、デバイスを右クリックし、**[プロパティー]** を選択します。

次の設定が表示されます。

> デバイスによっては、一部のオプションが異なる場合があり、デバイスのログインが必要な場合があります。

基本デバイス設定

このエリアには、デバイスの表示名、モデル、ステータス、IP アドレス、ホスト名、ロケーション、および説明が表示されます。パネルメッセージのボックスには、デバイス操作パネルに現在表示されている情報が表示されます。デバイスの表示名、ロケーション、および説明を編集できます。

デバイスアラート

このエリアには、現在発生しているアラートに関する説明および取り得るトラブルシューティングの方法が表示されます。

用紙設定

このエリアには、現在装着されているトレイとカセット、およびその容量とおおよその用紙残量が表示されます。

性能

このエリアには、現在選択しているデバイスの主な仕様が表示されます。

カウンター

このエリアには、さまざまな種類の用紙、メディア、および出力用の各種カウンターが表示されます。

ファームウェアバージョン

このエリアには、システムの各種パーツのファームウェアバージョンが表示されます。

システムファームウェア (詳細)

このエリアには、選択したデバイスにインストールされているコントローラーファームウェアのバージョンが表示されます。

メモリー

このエリアには、サポートされている各ストレージデバイスの容量と使用量が表示されます。

固定資産

このエリアには、デバイスのネットワークアダプターの MAC アドレス、デバイス自体のシリアル番号、組織から割り当てられた固定資産番号が表示されます。

Wi-Fi

このエリアには、選択したワイヤレス対応のデバイスにワイヤレスネットワークカードがインストールされている場合、ワイヤレスネットワーク接続の詳細が表示されます。

Trusted Platform Module (TPM)

このエリアには、デバイスステータス、製造元名、製造元バージョン、および仕様バージョンが表示されます。

カードリーダー

このエリアには、お使いのデバイスにカードリーダーがインストールされている場合、ファームウェアとアプリケーションのバージョンが表示されます。

メンテナンスキット

このエリアには、お使いのデバイスが対応しているメンテナンスキットの使用レベルが表示されます。

Allowlisting

このエリアには、お使いのデバイスの allowlisting 状況が表示されます。

セキュアブート

このエリアには、お使いのデバイスの BIOS およびファームウェア設定の状態が表示されます。

CO2 排出量チャート

このエリアには、お使いのデバイスの推定電力消費量と CO2 排出量が表示されます。

2 このダイアログボックスが開いている間に変更されたデバイスの設定を更新するには、**[更新]** を選択します。

デバイスのパスワードをインポート

.csv ファイルから複数のデバイスにパスワードを読み込みます。この機能により、デバイス初回設定時の労力を削減できます。

.csv ファイルを手動で作成またはアプリケーションからファイルを生成できます。.csv ファイルにはシリアル番号とパスワードのセットペアが含まれていて、パスワードを対応するデバイスに一致させるために使用できます。デバイス情報を含む .csv ファイルの生成に関する詳細については、表示、リスト、およびデバイス情報をエクスポートする を参照してください。

デバイスによっては、パスワードで使用されている一部の特殊文字と記号はサポートされていない場合があります。

パスワードのインポートを準備

1 アプリケーションの通信設定を構成します。次を行います。

a) デバイスのリストで、すべてのデバイスを選択します。右クリックして **[通信設定]** を選択します。

b) **[複数の通信設定]** > **[ログイン]** で、Admin をログインユーザー名として入力します。

c) **[OK]** を選択します。

すべての選択済みデバイスのデフォルトのログインユーザー名が、空欄から Admin に変更されます。

2 [デバイスのパスワードをインポート] で使用するために .csv ファイルを用意します。次のいずれかを行います。

.csv ファイルを手動で作成する

a. スプレッドシートアプリケーションを開きます。

b. 最初の列で、デバイスのシリアル番号のリストを入力します。次の列で、デバイスのパスワードのリストを入力します。

- デフォルトでは、アプリケーションはパスワードを最初の行から読み込みます。.csv ファイルにヘッダー行が含まれている場合、デフォルトでアプリケーションにその行の情報が含まれます。
- 値が最初の行に指定されていることを確認してください。最初の行の入力が空欄のままの場合、その入力に対する列の情報はアプリケーションに含まれません。

c. ファイルを .csv 形式で保存します。

情報をアプリケーションから .csv ファイルにエクスポートする

a. 任意のビューから、**[ファイル]** > **[エクスポート]** に移動し、次から選択します。

- **[ビュー]**
- **[リスト]**

- **[デバイス]**

  お使いのビューによっては、オプションが異なる場合があります。

b. エクスポートの詳細を入力します。

- ファイルの場所
- ファイル名
- ファイルの種類

  .csv ファイルへのエクスポートには、UTF-8 エンコードが使用されます。

c. **[保存]** を選択します。

各エクスポートオプションでは、異なる情報が提供されます。各タイプの結果を確認します。

d. .csv ファイルを開きます。

e. 空欄の列で、リストされているデバイスに対応するパスワードのリストを入力します。

- デフォルトでは、アプリケーションはパスワードを最初の行から読み込みます。.csv ファイルにヘッダー行が含まれている場合、デフォルトでアプリケーションにその行の情報が含まれます。
- 値が最初の行に指定されていることを確認してください。最初の行の入力が空欄のままの場合、その入力に対する列の情報はアプリケーションに含まれません。

f. ファイルを .csv 形式で保存します。

3 パスワードインポート時のエラーを回避するために、必ずファイルを閉じます。

ファイルに完全な情報が含まれていてファイルが破損していないことを確認してください。エラーメッセージが表示された場合は、.csv ファイルを再び作成または生成してください。

パスワードをファイルからインポート

1 アプリケーションで、**[デバイス]** > **[デバイスのパスワードをインポート]** を選択します。

2 [デバイスのパスワードをインポート] ダイアログで、デバイスのパスワードを読み込む元の .csv ファイルを参照して指定します。

3 [シリアル番号とパスワード] で値を確認または変更します。

[シリアル番号とパスワード] には、適切な列の値を選択していることを確認してください。

4 **[保存]** を選択します。

デバイスのホームページを表示する

Embedded Web Server を使用してデバイスのホームページを表示します。デバイスのホームページは、デバイスの現在のステータスや設定に関する情報を表示します。

デバイスによっては、ホームページに表示されるレイアウトおよび情報が異なる場合があります。

任意のデバイスビューから、デバイスを選択し、**[デバイス]** > **[デバイスのホームページ]** に移動します。

デバイスプロパティーのレポート

マイビューの現在のデバイスビューにあるデバイスについて詳細な情報を提供するレポートを管理します。レポートは、複数の受信者に送信することも、日時を指定して送信することも可能です。

レポートには、選択したビューで表示されているものと同じデバイス情報が含まれます。各ビューには、デバイスプロパティーのレポートを 1 つのみ含めることができ、すべてのデバイスビューには合計 5 つのレポートを作成できます。

デバイスプロパティーのレポートは、ユーザーが指定したレポート名を持ち、リストで指定されたメールアドレスに送信できます。レポートを毎日、毎週、または毎月、送信するようにスケジュールできます。メールの件名にユーザー指定のメッセージを追加することもできます。

.xml または .csv 形式のレポートを作成できます。

- この機能はマップビューでは使用できません。
- この機能には「オプション」で設定するメール設定が必要です。

デバイスプロパティーのレポートを作成する

- マイビューでのみデバイスプロパティーのレポートを作成できます。
- この機能には「オプション」で設定するメール設定が必要です。

1. マイビューから、デバイスビューを選択し、**[デバイス]** > **[デバイスプロパティーのレポートを追加]** に移動します。
2. 必要に応じてデフォルト設定を変更します。
3. **[OK]** を選択します。

デバイスプロパティーのレポート設定を表示し変更する

1. マイビューから、デバイスビューを選択し、**[デバイス]** > **[デバイスプロパティーのレポートを表示]** に移動します。
2. レポートを選択して、**[プロパティー]** を選択します。

3 「デバイスプロパティーのレポートを編集」で、必要に応じて設定を変更します。

4 **[OK]** を選択します。

証明書を管理する

1 台以上のデバイスに対しデバイス証明書とルート証明書をインポートまたは削除します。また、デバイス証明書をプロトコルに割り当てます。

次の証明書をインストールできます。

デバイス証明書

デバイスを識別するファイルです。

ルート証明書

セキュリティー保護付きの通信を行うために、デバイスが使用するファイルです。一部のアプリケーションでは、ルート証明書をサーバー証明書としても使用できます。

1 台のデバイス上で証明書を管理する

1 台のデバイス上で証明書を管理する場合、デバイス上で追加した証明書の詳細を表示できます。

1 台のデバイス上で証明書をインポートする

無効な証明書にのみインポートできます。

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[証明書]** に移動します。

ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 **[証明書をインポートする]** を選択します。

3 次のいずれかを行います。

オプション	操作
デバイス証明書をインポート	a. 証明書メニューで、**[デバイス証明書]** を選択します。 b. 必要に応じて、インストールエリアメニューで、証明書番号を選択します。 デフォルトの有効な証明書を使用するには、**[自動 (デフォルト)]** を選択します。 c. 証明書ファイルで、**[参照]** を選択し、インポートする証明書を指定します。 d. パスワードフィールドで、証明書のパスワードを入力します。 e. **[OK]** を選択します。
ルート証明書をインポート	a. 証明書メニューで、**[ルート証明書]** を選択します。 b. 必要に応じて、インストールエリアメニューで、証明書番号を選択します。 デフォルトの有効な証明書を使用するには、**[自動 (デフォルト)]** を選択します。 c. 証明書ファイルで、**[参照]** を選択し、インポートする証明書を指定します。 d. **[OK]** を選択します。

4 **[OK]** を選択します。
処理終了後にデバイスネットワークが自動的に再起動します。処理中ページに証明書処理の状況が表示されます。処理には数分かかることがあります。

処理が完了すると、証明書画面が更新されます。エラーが発生した場合、**[エクスポート]** を選択すると、詳細な結果ログを確認できます。

1 台のデバイス上でデバイス証明書をプロトコルに割り当てる

有効なデバイス証明書のみをプロトコルに割り当てることができます。

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[証明書]** に移動します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 有効なデバイス証明書を右クリックし、**[デバイス証明書をプロトコルに割り当てる]** を選択します。

3 プロトコルリストで、プロトコルを 1 つ以上選択し、**[OK]** を選択します。

以前に選択したプロトコルをクリアすると削除されます。

4 **[OK]** を選択します。
処理終了後にデバイスネットワークが自動的に再起動します。処理中ページに証明書処理の状況が表示されます。処理には数分かかることがあります。

処理が完了すると、証明書画面が更新されます。エラーが発生した場合、**[エクスポート]** を選択すると、詳細な結果ログを確認できます。

1 台のデバイス上で証明書を削除する

有効な証明書のみ削除できます。

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[証明書]** に移動します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 有効な証明書を右クリックし、**[証明書を削除]** を選択し、**[次へ]** を選択します。

3 **[はい]** > **[OK]** を選択します。
処理終了後にデバイスネットワークが自動的に再起動します。処理中ページに証明書処理の状況が表示されます。処理には数分かかることがあります。

処理が完了すると、証明書画面が更新され、選択した証明書が **[無効]** に設定されます。エラーが発生した場合、**[エクスポート]** を選択すると、詳細な結果ログを確認できます。

証明書の詳細を表示する

有効な証明書のみ詳細を表示できます。

1 デバイスを選択し、**[デバイス]** > **[証明書]** に移動します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 有効な証明書を右クリックし、**[証明書の詳細]** を選択します。

3 **[OK]** を選択します。

SCEP を使用して 1 台のデバイスに証明書を取得する

Simple Certificate Enrollment Protocol (SCEP) を使用して、定義された認証局 (CA) から 1 台のデバイスのセカンダリーデバイス証明書をインポートできます。SCEP 設定についての詳細は、システム管理者にお問い合わせください。

この機能は、一部のデバイスで非アクティブのデバイス証明書 2、3、4、および 5 にのみ使用できます。

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[証明書]** に移動します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 非アクティブなセカンダリーデバイス証明書を右クリックし、**[SCEP 経由で証明書を取得]** を選択します。

3 SCEP サーバー設定を確認または変更し、必要な CSR 設定を入力します。

4 **[登録]** を選択します。
インポートが終わったら、証明書のステータスを確認します。

個々のデバイスの使用可能な SCEP 設定を表示または変更するには、証明書で、セカンダリーデバイス証明書を右クリックし、**[自動インポート設定]** を選択します。

- デバイス証明書のステータスによっては、自動インポート設定が異なる場合があります。
- このオプションは、SCEP で取得した個々のデバイス証明書にのみ使用できます。

複数のデバイス上で証明書を管理する

複数のデバイスを管理する場合、証明書は表示できません。デバイス上の証明書を表示するには、デバイスを個別に管理する必要があります。

複数のデバイス上で証明書をインポートする

1 任意のデバイスビューから複数のデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[証明書を管理]** に移動します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 **[証明書をインポート]** > **[次へ]** を選択します。

3 次のいずれかを行います。

オプション	操作
デバイス証明書をインポート	a. **[デバイス証明書]** > **[次へ]** を選択します。 b. 構成を含む .csv ファイルを指定し、証明書ファイルを含む .zip ファイルを指定します。 必要に応じて、**[デバイス証明書をプロトコルに割り当てる]** を選択して、使用可能なデバイスプロトコルに証明書を割り当てます。 c. **[次へ]** を選択します。 d. 「デバイス証明書をプロトコルに割り当てる」を選択した場合、プロトコルを 1 つ以上追加して **[次へ]** を選択します。

オプション	操作
ルート証明書をインポート	a. **[ルート証明書]** > **[次へ]** を選択します。 b. インポートする証明書を指定します。 c. **[次へ]** を選択します。

4 設定を確認し、**[完了]** を選択します。

5 **[OK]** を選択します。
処理終了後にデバイスネットワークが自動的に再起動します。処理中ページに証明書処理の状況が表示されます。処理には数分かかることがあります。

処理の完了後、**[エクスポート]** を選択すると、詳細な結果ログを確認できます。

複数のデバイス上でデバイス証明書をプロトコルに割り当てる

1 任意のデバイスビューから複数のデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[証明書を管理]** に移動します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 **[デバイス証明書をプロトコルに割り当てる]** > **[次へ]** を選択します。

3 次のいずれかを行います。

オプション	操作
証明書のサブジェクトを指定します。	a. 証明書のサブジェクトを識別名 (DN) として入力します。 b. **[次へ]** を選択します。
証明書ファイルを指定	a. 証明書ファイルを指定します。 b. 選択した証明書ファイルにパスワードが必要な場合、証明書パスワードを入力し、**[次へ]** を選択します。

4 「プロトコルを選択」で、プロトコルを選択し、「選択したプロトコル」に追加します。
必要に応じて、この手順を繰り返してプロトコルをさらに追加します。

5 **[次へ]** を選択します。

6 設定を確認し、**[完了]** を選択します。

7 **[OK]** を選択します。
処理終了後にデバイスネットワークが自動的に再起動します。処理中ページに証明書処理の状況が表示されます。処理には数分かかることがあります。

処理の完了後、**[エクスポート]** を選択すると、詳細な結果ログを確認できます。

複数のデバイス上で証明書を削除する

1. 任意のデバイスビューから複数のデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[証明書を管理]** に移動します。
   ログイン情報の提供が必要になる場合があります。
2. **[証明書を削除]** > **[次へ]** を選択します。
3. **[デバイス証明書]** または **[ルート証明書]** を選択して、**[次へ]** を選択します。
4. 次のいずれかを行います。

オプション	操作
証明書のサブジェクトを指定します。	**a.** 証明書のサブジェクトを識別名 (DN) として入力します。 **b.** **[次へ]** を選択します。
証明書ファイルを選択	• デバイス証明書の場合 **a.** 証明書ファイルを指定します。 **b.** 選択した証明書ファイルにパスワードが必要な場合、証明書パスワードを入力し、**[次へ]** を選択します。 • ルート証明書の場合 **a.** 証明書ファイルを指定します。 **b.** **[次へ]** を選択します。

5. 設定を確認し、**[完了]** を選択します。
6. **[OK]** を選択します。
   処理終了後にデバイスネットワークが自動的に再起動します。処理中ページに証明書処理の状況が表示されます。処理には数分かかることがあります。

処理の完了後、**[エクスポート]** を選択すると、詳細な結果ログを確認できます。

SCEP を使用して複数のデバイスに証明書を取得する

Simple Certificate Enrollment Protocol (SCEP) を使用して、定義された認証局 (CA) から複数のデバイスのセカンダリーデバイス証明書をインポートできます。SCEP 設定についての詳細は、システム管理者にお問い合わせください。

この機能は、一部のデバイスで非アクティブのデバイス証明書 2、3、4、および 5 にのみ使用できます。

1. 任意のデバイスビューから複数のデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[証明書を管理]** に移動します。
   ログイン情報の提供が必要になる場合があります。
2. **[SCEP 経由で証明書を取得]** > **[次へ]** を選択します。

3 すべてのデバイスに対して非アクティブなセカンダリーデバイス証明書を選択します。

4 SCEP サーバー設定を確認または変更し、必要な CSR 設定を入力します。

5 **[登録]** を選択して、次のいずれかを行います。

- 設定を確認または変更するには、**[戻る]** を選択します。
- 継続するには、**[終了]** を選択します。
- 設定を保存せずに操作を終了するには、**[キャンセル]** を選択します。

6 インポートが終わったら、各デバイスの結果を確認します。

ファイルに結果を保存するには、**[エクスポート]** を選択します。継続するには、**[閉じる]** を選択します。

個々のデバイスの使用可能な SCEP 設定を表示または変更するには、証明書で、セカンダリーデバイス証明書を右クリックし、**[自動インポート設定]** を選択します。

- デバイス証明書のステータスによっては、自動インポート設定が異なる場合があります。
- このオプションは、SCEP で取得した個々のデバイス証明書にのみ使用できます。

アドレス帳

デバイスに保存されている個人とその個人アドレス情報のリストを含んだアドレス帳を管理します。個人に関する各エントリーは個人アドレスと呼ばれ、個人アドレスはグループに分類できます。この個人アドレスとグループ情報はデバイスに保存され、ファクスとスキャン操作に使われます。

個人アドレスを追加する

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[アドレス帳]** に移動します。

ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 **[個人アドレスの追加]** を選択します。

3 個人アドレス設定で、個人アドレス用の番号を選択します。

次に使用可能な番号を使用するには、**[自動]** を選択します。

4 名前のテキストボックスに、個人アドレスの名前を入力します。

必要に応じて、フリガナを入力します。

5 新しい個人アドレスの、追加の設定を編集します。

お使いのデバイスによっては、オプションが異なる場合があります。

カバーページ
個人アドレスのカバーページ情報。

メール
個人アドレスのメールアドレスを入力します。

FTP
FTP 共有フォルダーの情報と設定を入力します。

SMB
SMB 共有フォルダーの情報と設定を入力します。

ファクス
個人アドレスのファクス情報と設定を入力します。

インターネットファクス
個人アドレスのインターネットファクス情報と設定を入力します。

6 **[OK]** を選択します。

編集するには、個人アドレスを選択し、**[プロパティー]** を選択します。必要に応じて、設定を編集し、**[OK]** を選択します。

削除するには、個人アドレスを選択し、**[削除]** > **[はい]** を選択します。

グループを追加する

個人アドレスをグループにまとめます。この機能は、デバイスに特定のタイプのイベントの通知を送信させる場合などに便利です。

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[アドレス帳]** に移動します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 **[グループの追加]** を選択します。

3 グループ設定で、グループの名前を入力します。

4 グループ用の番号を選択します。



次に使用可能な番号を使用するには、**[自動]** を選択します。

5 **[OK]** を選択します。

編集するには、グループを選択し、**[プロパティー]** を選択します。必要に応じて、設定を編集し、**[OK]** を選択します。

削除するには、グループを選択し、**[削除]** > **[はい]** を選択します。

グループに個人アドレスを追加する

各手順にはデバイスとの通信が必要であるため、ネットワークの状況によっては時間がかかる場合があります。

1. 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[アドレス帳]** に移動します。
   ログイン情報の提供が必要になる場合があります。
2. グループを選択して、**[プロパティー]** を選択します。
3. グループ設定で、**[メンバーの追加]** を選択します。
   デバイスから個人アドレスリストがダウンロードされ、ダイアログボックスに表示されます。
4. メンバーの追加で、個人アドレスを 1 つ以上選択し、**[追加]** を選択します。
5. すべてのダイアログボックスで **[OK]** を選択します。

グループから個人アドレスを削除するには、個人アドレスを 1 つ以上選択し、**[メンバーの削除]** を選択します。

ワンタッチキー

デバイスの操作パネルのキーを 1 つ押すだけで、アドレス帳の個人やグループにアクセスできます。

- お使いのデバイスにより、作成可能なワンタッチキーの最大数が異なります。
- この機能は、一部のデバイスでのみ使用できます。

ワンタッチキーを追加する

1. 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[アドレス帳]** に移動します。
   ログイン情報の提供が必要になる場合があります。
2. **[ワンタッチキーの表示]** を選択します。
3. ワンタッチキーで、**[ワンタッチキーの追加]** を選択します。
4. ワンタッチキーの追加で、キー名を指定し、1 から 1000 の番号を選択します。

   - キー名が指定されていない場合、個人アドレス名が使用されます。
   - 次に使用可能な番号を自動的に使用するには、**[自動]** を選択します。
   - 最大値はデバイスによって異なります。

5. **[宛先]** を選択し、ワンタッチキーの宛先で個人アドレスまたはグループを選択します。

6 すべてのダイアログボックスで **[OK]** を選択します。

削除するには、ワンタッチキーのエントリーを選択し、**[ワンタッチキーの削除]** を選択します。

ワンタッチキープロパティーを表示および編集する

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[アドレス帳]** に移動します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 **[ワンタッチキーの表示]** を選択します。

3 ワンタッチキーで、キーのエントリーを選択し、**[ワンタッチキーのプロパティー]** を選択します。

4 ワンタッチキープロパティーで、**[宛先の編集]** を選択して、必要に応じて設定を編集します。

5 すべてのダイアログボックスで **[OK]** を選択します。

ワンタッチキーを検索する

キーのエントリーを検索またはキーの宛先を編集する際に、ワンタッチキーを検索することができます。

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[アドレス帳]** に移動します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 **[ワンタッチキーの表示]** を選択します。

3 検索可能なフィールドで、次のいずれかのオプションを選択します。

- **[番号]**
- **[アドレス番号]**
- **[アドレスの種類]**
- **[名前]**
- **[宛先]**



アドレスの種類に応じて、これはメールアドレスまたはフォルダーの場所になります。このオプションは、ワンタッチキーの宛先を編集する場合のみに使用可能です。

4 テキストの検索テキストボックスに、検索する文字列を入力します。



検索結果をクリアしてリストをもう一度表示するには、ツールバーで **[サーチのクリア]** を選択します。

個人アドレスとグループをコピーする

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[アドレス帳]** に移動します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 個人アドレスまたはグループを選択して、**[コピー]** を選択します。

3 **[貼り付け]** を選択します。

4 必要に応じて、新しい個人アドレスまたはグループ設定を編集します。

5 **[閉じる]** を選択します。

アドレス帳リストをエクスポートする

個人アドレス、グループ、ワンタッチリストを .csv または .xml ファイルにエクスポートします。エクスポートされたリストをマルチセット機能にインポートできます。

この機能は、単一の部門別アドレス帳にはありません。部門別アドレス帳全体のみでリストをエクスポートできます。

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[アドレス帳]** に移動します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 **[エクスポート]** を選択します。

3 ファイル名を入力して、ファイルを保存します。

アドレス帳を検索する

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[アドレス帳]** に移動します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 検索可能なフィールドメニューで、次のいずれかのオプションを選択します。

お使いのデバイスによっては、オプションが異なる場合があります。

番号
個人アドレスに割り当てる一意の番号。

名前
個人アドレスの名前。

メール
個人アドレスのメールアドレス。

FTP
FTP フォルダーのホスト名。

SMB
SMB フォルダーのホスト名。

ファクス番号
個人アドレスのファクス番号。

インターネットファクスアドレス
個人アドレスのインターネットファクスアドレス。

フリガナ
個人アドレス名のフリガナ。

3 テキストの検索テキストボックスに、検索する文字列を入力します。

検索結果をクリアしてリストをもう一度表示するには、ツールバーで **[サーチのクリア]** を選択します。

S/MIME 証明書を管理する

S/MIME 証明書では、メールを暗号化できます。

- S/MIME 証明書オプションは、アドレス帳のメールアドレスを含む個々の個人アドレスにのみ使用できます。
- S/MIME 証明書オプションは、本体アドレス帳にのみ使用できます。詳細については、『*Command Center RX* 操作手順書』を参照してください。

1 S/MIME 証明書オプションにアクセスするには、次の手順を実行して、S/MIME のブロックを解除します。

a) 任意のデバイスビューから、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[デバイスネットワーク設定]** に移動します。

b) **[プロトコル設定]** に移動し、**[SMTP (メール送信)]** のブロックが解除されていることを確認します。必要に応じて、設定を変更し、**[適用]** を選択します。

c) **[S/MIME]** のブロックが解除されていることを確認します。必要に応じて、設定を変更し、**[適用]** を選択します。

d) **[OK]** を選択します。

2 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[アドレス帳]** に移動します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

3 メールアドレスを使用する個人アドレスを右クリックし、**[S/MIME 証明書]** を選択します。

4 リストから証明書を選択し、次のいずれかのオプションを選択します。

- リストを更新するには、**[更新]** を選択します。
- 証明書のステータスによっては、一部のオプションが使用できる場合があります。

証明書をインポート

証明書インストールの対象を指定し、適切な S/MIME 証明書を参照します。

証明書を削除

リストから選択した証明書を削除します。

証明書の詳細

選択した証明書の内容を表示します。

部門別アドレス帳

複数のアドレス帳を保存する部門別アドレス帳を管理します。各部門別アドレス帳には、本体アドレス帳から個人アドレスをコピーするオプションもあります。詳細については、『*Command Center RX* 操作手順書』を参照してください。デバイスの機能についての詳細は、デバイスの『使用説明書』を参照してください。

部門別アドレス帳を追加する

部門別アドレス帳には、**[エクスポート]** アイコンを除いて、メインアドレス帳に似たツールバーがあります。アドレス帳を構成するについての詳細は、『アドレス帳』の項を参照してください。

1. 任意のデバイスビューからデバイスを右クリックし、**[編集]** > **[部門別アドレス帳]** に移動します。
2. デバイス資格情報を使用してログインします。
3. **[部門別アドレス帳を追加する]** を選択します。
4. 次の設定を構成します。

番号

希望する番号を選択します。

次に使用可能な番号を使用するには、**[自動]** を選択します。

名前

希望する名前を入力します。

共有

希望する共有設定を選択します。

- **[オン (指定されたユーザーによる)]** を選択した場合、**[部門リスト]** および **[ローカルユーザーリスト]** を設定できます。
- 特定ユーザーの最大数は、部門リストおよびローカルユーザーリストの両方から選択されたユーザーを指定します。

部門リスト

登録されている各部門の部門コードとアカウント名を表示します。

[Kyocera Net Viewer] の部門管理コンポーネントをインストールし、ターゲットデバイスを **[部門デバイスビュー]** で管理する必要があります。

ローカルユーザーリスト

登録された各ユーザーのユーザー名およびログインユーザー名を表示します。

5 **[OK]** を選択します。

共有アドレス帳からコピーする

デバイスの共有アドレス帳から連絡先をコピーするには、次の手順を実行します：

選択した部門別アドレス帳に連絡先をコピーする前に、共有アドレス帳が空でないことを確認します。

1 任意のデバイスビューからデバイスを右クリックし、**[編集]** > **[部門別アドレス帳]** に移動します。

2 デバイス資格情報を使用してログインします。

3 既存の部門別アドレス帳を開くには、次のいずれかの操作を行います：

- 希望する部門別アドレス帳を右クリックし、**[表示]** を選択します。
- 希望する部門別アドレス帳をダブルクリックします。

4 **[コピー]** > **[共有アドレス帳からコピー]** を選択します。

5 個人アドレスまたはグループを選択して、**[OK]** を選択します。

6 選択された部門別アドレス帳で **[貼り付け]** を選択します。

7 必要に応じて、新しい個人アドレスまたはグループ設定を編集します。

8 **[閉じる]** を選択します。

デバイスユーザー

デバイス上のユーザーのログイン情報を管理します。

- ユーザー認証が設定されている場合、管理者権限を持つユーザーのみがデバイスの機能を使用できます。
- デバイスのユーザーリストにアクセスするには、そのデバイスの通信設定で正しいログイン情報を設定する必要があります。デバイスに管理者パスワードが設定されている場合は、管理者のみがユーザーリストを変更できます。
- 新しいデバイスユーザーを追加する前に、既存の部門コードがあることを確認します。

デバイスユーザーを追加する

1. 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[ユーザー]** に移動します。
   ログイン情報の提供が必要になる場合があります。
2. **[ユーザーの追加]** を選択します。
3. ユーザーの追加で、フリガナも含めて ログイン情報を入力します。
4. **[選択]** を選択して、部門コードを設定します。
5. 必要に応じて、**[管理者アクセスを許可する]** を選択し、ユーザーにデバイスの管理者権限を付与します。

   チェックボックスをクリアして、ユーザーにデフォルトのユーザーアクセス権を付与します。
6. **[拡張機能]** を選択して、言語と初期画面を指定します。

   初期画面のアプリケーションのオプションは、デバイスに 1 つ以上のアプリケーションがインストールされている場合のみ使用可能です。
7. 選択した初期画面に応じて、次の項目を構成します。

   送信/ファクス初期画面

   デバイスで **[デバイスシステム設定]** > **[送信設定]** が選択されている場合に表示されるデフォルトの操作パネル画面を選択します。

   初期アドレス帳

   ユーザー用にローカルアドレス帳や部門別アドレス帳、拡張アドレス帳を選択します。

   お気に入り/アプリケーション初期画面

   デバイスで **[デバイスシステム設定]** > **[プログラム/お気に入り (またはアプリケーション)]** が選択されている場合に表示されるデフォルトの操作パネル画面を選択します。

   デフォルトアプリケーション

   ユーザーが物理デバイスに最初にログオンしたときに表示されるアプリケーションを選択します。

8 ID カード情報で、ユーザー用の他と重複しない ID カードを指定します。

このオプションは、デバイスにカード認証キットがインストールされている場合に使用可能です。

9 認可で、使用可能な機能の許可情報を設定します。

10 **[OK]** を選択します。

ユーザー情報を編集するには、ユーザーを選択し、**[プロパティー]** を選択します。必要に応じて、設定を編集し、**[OK]** を選択します。

ユーザーを削除するには、ユーザーを選択し、**[ユーザーの削除]** > **[はい]** を選択します。

デバイスのユーザーリストをエクスポートする

.csv または .xml ファイルにエクスポートできます。

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[ユーザー]** に移動します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 **[ユーザーのエクスポート]** を選択します。

3 すべてのユーザーをエクスポートするには **[はい]** を、指定ユーザーをエクスポートするには **[いいえ]** を選択します。

4 ファイル名を入力して、ファイルを保存します。

デバイスユーザリストを検索する

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[ユーザー]** に移動します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 検索可能なフィールドのメニューで、検索するタイプを選択します。

3 検索テキストボックスに、検索するテキストを入力します。
該当する場合、フリガナで検索できます。

検索結果をクリアしてリスト全体をもう一度表示するには、**[サーチのクリア]** を選択します。

簡単ログインキーを設定する

この機能は、一部のデバイスでのみ使用できます。

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[ユーザー]** に移動します。

ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2. **[簡単ログインキーの表示]** を選択します。
3. 簡単ログインキーで、**[簡単ログインキーの追加]** を選択します。
4. アイコンを選択して、名前を入力します。
5. キーのテキストボックスで、特定の番号を 1 から 20 の間で選択するか、**[次の使用可能な番号]** を選択して自動で番号を設定します。
6. 次のいずれかの認証モードを選択します。

   ローカル認証を使用

   使用可能なデバイスユーザーログイン情報を使用します。**[ユーザーリストから選択]** を選択し、ユーザーを選択して **[OK]** を選択します。

   ネットワーク認証を使用

   ネットワークユーザーログイン情報を使用します。ネットワークログインユーザー名とパスワードを入力します。
7. 必要に応じて、パスワードログインで、**[オン]** を選択してパスワードログインを要求するか、**[オフ]** を選択してパスワードの要求を無効にします。
8. **[追加]** を選択します。

編集するには、簡単ログインキーを選択し、**[簡単ログインキーのプロパティー]** を選択します。必要に応じて、設定を編集し、**[OK]** を選択します。

削除するには、簡単ログインキーを選択し、**[簡単ログインキーの削除]** > **[はい]** を選択します。

簡単ログインキーリストを検索する

1. 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[ユーザー]** に移動します。
   ログイン情報の提供が必要になる場合があります。
2. **[簡単ログインキーの表示]** を選択します。
3. 検索可能なフィールドのメニューで、検索するタイプを選択します。
4. 検索テキストボックスに、検索するテキストを入力します。



検索結果をクリアしてリスト全体をもう一度表示するには、**[サーチのクリア]** を選択します。

ジョブ

現在デバイスのキューにあるジョブ、および処理済みの最近のジョブについての情報を含むジョブ履歴を管理します。

ジョブの詳細を表示する

1. 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[ジョブ]** に移動します。
   ログイン情報の提供が必要になる場合があります。
2. **[表示]** を選択して、次のいずれかのジョブ状況またはログを選択します。
   - **[印刷ジョブ状況]**
   - **[送信ジョブ状況]**
   - **[保存ジョブ状況]**
   - **[予約ジョブ状況]**
   - **[印刷ジョブ履歴]**
   - **[送信ジョブ履歴]**
   - **[保存ジョブ履歴]**
3. ジョブリストで、ジョブを選択し、**[プロパティー]** を選択します。
4. ジョブ情報を確認します。

   選択したジョブのタイプによっては、情報が異なる場合があります。
5. **[閉じる]** を選択します。

1 つ以上のジョブをキャンセルするには、1 つ以上のジョブを選択し、**[ジョブをキャンセル]** を選択します。

ジョブ履歴をエクスポートする

1. 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[ジョブ]** に移動します。
   ログイン情報の提供が必要になる場合があります。
2. **[エクスポート]** を選択して、ジョブ履歴を選択します。
3. ファイル名と保存先を指定します。
4. 「最大数」メニューで、ログに保存するジョブ履歴の行数を入力します。
5. **[OK]** を選択します。

ジョブリストを検索する

1. 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[ジョブ]** に移動します。
   ログイン情報の提供が必要になる場合があります。
2. 検索可能なフィールドのメニューで、検索するタイプを選択します。
3. 検索テキストボックスに、検索するテキストを入力します。

検索結果をクリアしてリスト全体をもう一度表示するには、**[サーチのクリア]** を選択します。

バックアップと復元

この機能を使用すると、選択したデバイスのバックアップおよび復元ログを表示できます。

1. 任意のデバイスビューから、デバイスを右クリックし、**[編集]** > **[バックアップと復元]** に移動します。

   バックアップまたは復元履歴がない場合、情報は表示されません。

2. **[閉じる]** を選択します。

ジョブ保留

デバイスのハードディスクに保存されている一時または恒久印刷ジョブを表示、印刷、または削除します。

保存されているジョブを表示するには、任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[ジョブ保留]** に移動します。

リストを更新するには、**[更新]** を選択します。

この機能は、ハードディスクがインストールされている一部のデバイスでのみ使用可能です。

保留ジョブを印刷する

1. 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[ジョブ保留]** に移動します。
   ログイン情報の提供が必要になる場合があります。
2. リストからジョブを選択し、**[印刷]** > **[選択されたジョブを印刷]** > **[はい]** を選択します。

保留ジョブリストを印刷する

1. 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[ジョブ保留]** に移動します。
   ログイン情報の提供が必要になる場合があります。
2. **[印刷]** を選択して、次のいずれかを選択します。
   - **[一時保存ジョブリストを印刷]**
   - **[恒久保存ジョブリストを印刷]**

保留ジョブを削除する

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[ジョブ保留]** に移動します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 **[削除]** を選択して、次のいずれかを選択します。

- **[選択したジョブを削除]**
- **[一時保存ジョブをすべて削除]**
- **[恒久保存ジョブをすべて削除]**
- **[すべてのジョブを削除]**

3 **[はい]** を選択します。

保留ジョブを検索する

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[ジョブ保留]** に移動します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 検索可能なフィールドのメニューで、検索するタイプを選択します。

3 検索テキストボックスに、検索するテキストを入力します。

検索結果をクリアしてリスト全体をもう一度表示するには、**[サーチのクリア]** を選択します。

文書ボックス

デバイス上の文書ボックスを管理します。これは、デバイスに保存されているファイルを管理するために、個人またはグループが使用します。

- 認証が設定されている場合、文書ボックスにアクセスするには、デバイスの通信設定で正しいログイン情報が必要になります。
- 認証が設定されていない場合、デバイスによってはログインダイアログボックスが表示される場合があります。

文書ボックスを追加する

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[文書ボックス]** に移動します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 **[ボックスを追加]** を選択します。

デバイスによっては、作成できる文書ボックス数が異なる場合があります。

3 「ボックスを追加」ダイアログボックスで、新しいボックスの名前を入力します。

デフォルトのボックスタイプは、ユーザーボックスです。一部のデバイスは、ファクス受信用にファクスボックスまたはサブアドレスもサポートしています。

4 パスワード保護された文書ボックスを作成するには、パスワードを指定します。

5 次の設定を構成します。

お使いのデバイスによっては、表示される設定および情報が異なる場合があります。

名前

ボックスの名前を入力します。

タイプ

文書ボックスのタイプを表示します。

番号

使用可能なボックス番号を選択します。

所有者

リストから新しい所有者を選択します。このオプションは、所有者の設定が有効な場合にのみ使用可能です。

所有者の設定

所有者のタイプを次から選択します。

- **[オフ]**
- **[ローカルユーザー]**
- **[ネットワークユーザー]**

ドメイン

使用可能なドメインのリストから選択します。

使用量

現在のボックスの使用量を表示します。

使用制限 (MB)

ボックスの使用量を 1 から 30000 MB の間で制限します。

自動文書削除 (日)

デバイスメモリーにファイルを保存する期間を 1 から 31 日の間で選択します。

共有

選択すると、複数のユーザーがボックスを使用できるようになります。

パスワード変更

ボックスの新しいパスワードを入力します。

上書き保存許可

選択した場合、新規のファイルが同一の名前を持つ古いファイルを上書きします。

サブアドレス

ボックスのサブアドレスを表示します。

この設定はサブアドレスのボックスのみに使用可能です。

印刷後削除

印刷後、ボックスから文書を完全に削除する場合に選択します。

6 **[OK]** を選択します。

編集するには、文書ボックスを選択し、**[ボックスのプロパティー]** を選択します。必要に応じて、設定を編集し、**[OK]** を選択します。

削除するには、文書ボックスを選択し、**[ボックスの削除]** を選択します。

文書ボックスのリストをエクスポートする

エクスポートしたファイルを使用して、マルチセット機能を介して設定をインポートできます。

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[文書ボックス]** に移動します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 リストからボックスを選択します。

3 **[エクスポート]** を選択して、エクスポートするファイルのファイル形式を選択します。

マルチセットおよび KX Driver エクスポート形式は、ファクスまたはサブアドレスボックスには使用できません。

4 すべてのボックスをエクスポートするには **[はい]** を、選択したボックスをエクスポートするには **[いいえ]** を選択します。

パスワード付きのユーザーボックスは、いずれかのマルチセットのエクスポート形式を選択した場合、エクスポートされません。

5 ファイルに名前を付けて、保存します。

文書のプロパティーを表示する

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[文書ボックス]** に移動します。

ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 ユーザーボックスで、文書ボックスを選択します。

3 ファイルを選択して、**[文書のプロパティー]** を選択します。

4 **[OK]** を選択します。

文書を表示する

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[文書ボックス]** に移動します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 文書ボックスを設定して、**[表示]** を選択します。

3 次のうち、1 つ以上を選択します。

お使いのデバイスによっては、オプションが異なる場合があります。

サムネイル
文書のサムネイルイメージを表示します。

プレビューペイン
文書内容のプレビューを表示します。

文書をダウンロードする

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[文書ボックス]** に移動します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 ユーザーボックスで、文書ボックスを選択します。

3 ファイルを選択して、**[文書のダウンロード]** を選択します。

4 ファイルの保存先を指定します。

5 ファイル名を入力して、ファイルのタイプを選択します。

6 **[保存]** を選択します。

文書ボックスを検索する

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[文書ボックス]** に移動します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 検索可能なフィールドのメニューで、検索するタイプを選択します。

3 検索テキストボックスに、検索するテキストを入力します。

検索結果をクリアしてリスト全体をもう一度表示するには、**[サーチのクリア]** を選択します。

文書ボックスを他のボックスに移動する

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[文書ボックス]** に移動します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 ユーザーボックスで、移動するファイルを含む文書ボックスを選択します。

3 ファイルを 1 つ以上選択して、宛先の文書ボックスにファイルを移動します。

4 **[はい]** を選択します。

スタンプボックス

この機能は、ウォーターマークファイルを保存します。機密文書の検知はスキャン中にのみ行われます。

- この機能は、一部のデバイスでのみ使用できます。
- この機能には、固定数のボックスがあり、各スタンプボックスには 1 つのファイルのみを保存できます。
- ウォーターマークを含むファイルの追加の詳細については、『*Command Center RX* 操作手順書』を参照してください。

スタンプボックスを表示する

以前に Command Center RX に追加されたファイルを確認するには、次を行います：

1 任意のデバイスビューから、デバイスを右クリックし、**[編集]** > **[文書ボックス]** を選択します。

2 各スタンプボックスのファイルを表示するには、**[更新]** を選択します。

3 **[閉じる]** を選択します。

ファイルの名前を変更するには、**[文書のプロパティー]** を選択します。**[名前]** を編集して、**[OK]** を選択します。

ファイルを削除するには、**[削除]** を選択します。

機密文書の検知を有効にする

この機能を **[Kyocera Net Viewer]** で有効にする前に、必ず Command Center RX に希望するファイルを追加します。

1 任意のデバイスビューから、デバイスを右クリックし、**[拡張機能]** > **[デバイスデフォルト設定]** を選択します。

2 **[機密文書検知設定]** に移動して、**[オン]** を選択します。

選択したサブオプションに関係なく、検出は自動的に有効になります。

3 **[検出する文字列]** で希望する項目を選択します。

4 必要に応じて、オプション設定を変更します。

5 **[適用]** > **[OK]** を選択します。

バーチャルメールボックス

デバイスのハードディスクに作成されたメールボックスを管理します。

この機能は、ハードディスクがインストールされている一部のデバイスでのみ使用可能です。

バーチャルメールボックスを追加する

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[バーチャルメールボックス]** に移動します。

2 **[新規メールボックス]** を選択します。

3 メールボックスの ID、名前、およびパスワードを入力します。

メールボックスには一意の名前を使用します。

4 **[OK]** を選択します。

編集するには、メールボックスを選択し、**[メールボックスプロパティー]** を選択します。設定を編集し、**[OK]** を選択します。

削除するには、メールボックスを選択し、**[メールボックスを削除]** > **[はい]** を選択します。

パスワードが設定されている場合は、正しいパスワードを入力します。

バーチャルメールボックスを検索する

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[バーチャルメールボックス]** に移動します。

2 検索可能なフィールドのメニューで、検索するタイプを選択します。

3 検索テキストボックスに、検索するテキストを入力します。

検索結果をクリアしてリスト全体をもう一度表示するには、**[サーチのクリア]** を選択します。

バーチャルメールボックスリストをエクスポートする

1. 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[バーチャルメールボックス]** に移動します。
2. バーチャルメールボックスを選択し、ツールバーで **[リストのエクスポート]** を選択します。
3. エクスポートの詳細を入力します。

エクスポートしたファイルをプリンタードライバーにインポートできます。

バーチャルメールボックス拡張機能オプションを設定する

1. 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[バーチャルメールボックス]** に移動します。
2. メールボックスを選択し、**[拡張機能]** を選択します。
3. パスワードが設定されている場合は、正しいパスワードを入力し、**[OK]** を選択します。
4. 必要に応じて、次の設定を変更します。

   VMB の最大サイズ

   メールボックスのサイズを 0 から 9999 MB の範囲で設定します。メールボックスを使用しないようにするには、値を **[0]** に設定します。

   マスターパスワードを変更

   数値を 1 から 65535 の範囲で設定します。このパスワードは、現在のメールボックスのパスワードを上書きまたは変更するために使用されます。パスワードを削除するには、「新しいパスワード」と「新しいパスワードの確認」のテキストボックスをクリアします。

   バーチャルメールボックスをすべて削除

   すべてのバーチャルメールボックスデータをハードディスクから削除します。**[すべて削除]** > **[はい]** を選択します。

5. **[OK]** > **[閉じる]** を選択します。

デバイスアプリケーション

1 台以上のデバイスのアプリケーションをリモートで管理できます。お使いのデバイスによっては、使用可能な機能が異なる場合があります。

アプリケーションをインストール、アクティブ化、非アクティブ化、またはアンインストールする前に、次を実行します。

- デバイスの TLS および IPP over TLS を有効にします。
- 一部のデバイスでは、Enhanced WSD over TLS を有効にします。
- デバイスの通信設定で正しいログイン情報を入力します。

アプリケーションは、印刷、コピー、または部門管理の機能の拡張のために、ディーラーまたはサードパーティーによって作成されます。

アプリケーションを 1 台のデバイスで管理する

「アプリケーションの管理」ウィザードを使用して、1 台のデバイスでアプリケーションをリモートで管理します。

アプリケーションを 1 台のデバイスにインストールする

アプリケーションをインストールする前に、お使いのプリンターに SD カード、HDD、または SSD がインストールされていることを確認してください。

1. 任意のデバイスビューから、次のいずれかを行います。
   - デバイスを選択し、**[デバイス]** > **[アプリケーション]** に移動します。
   - デバイスを右クリックし、**[編集]** > **[アプリケーション]** を選択します。

   ログイン情報の提供が必要になる場合があります。
2. ツールバーで、**[新規インストール]** を選択します。
3. 有効なアプリケーションパッケージファイル (.pkg または .fwp) を参照し、**[開く]** > **[はい]** を選択します。

1 台のデバイスでインストールされたアプリケーションを起動する

1. 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[アプリケーション]** に移動します。
   ログイン情報の提供が必要になる場合があります。
2. アプリケーションを選択し、**[起動]** を選択します。
3. ライセンスキー設定で、次のいずれかを選択します。

   ライセンスキーなしで起動
   アプリケーションにライセンスキーが必要でない場合にこのオプションを選択します。

   次のライセンスキーを使用
   20 桁のライセンスキーを入力します。
4. **[OK]** > **[閉じる]** を選択します。

1 台のデバイスでインストールされたアプリケーションを停止する

1. 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[アプリケーション]** に移動します。
   ログイン情報の提供が必要になる場合があります。
2. アプリケーションを選択し、ツールバーで **[停止]** を選択します。
3. **[はい]** > **[閉じる]** を選択します。

1 台のデバイスでアプリケーションをアンインストールする

> SD カード、HDD、または SSD の破損を回避するために、アンインストールする前にアプリケーションを必ず非アクティブ化してください。

1. 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[アプリケーション]** に移動します。
   ログイン情報の提供が必要になる場合があります。
2. アプリケーションを選択し、ツールバーで **[アンインストール]** を選択します。
3. **[はい]** > **[閉じる]** を選択します。

アプリケーションを複数のデバイスで管理する

「アプリケーションの管理」ウィザードで、複数のデバイスでアプリケーションをリモートで管理します。

アプリケーションを複数のデバイスにインストールする

「アプリケーションの管理」ウィザードを使用して、1 台または複数のデバイスにアプリケーションをインストールします。アプリケーションをインストールした後は、アプリケーションをすぐに起動することができます。

1. 任意のデバイスビューから複数のデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[アプリケーションの管理]** に移動します。
   ログイン情報の提供が必要になる場合があります。
2. **[アプリケーションをインストール]** を選択します。使用可能なライセンスがある場合、**[インストール後、アプリケーションを起動する]** を選択します。
3. **[次へ]** を選択します。
4. 有効なアプリケーションパッケージファイル (.pkg または .fwp) を指定し、**[開く]** > **[次へ]** を選択します。
5. 「インストール後、アプリケーションを起動する」が選択されていて、ライセンスが必要な場合、次のいずれかを選択します。

オプション	操作
[ライセンスキーなしで起動]	次のステップに進みます。
[次のライセンスキーを使用]	デバイスを選択し、20 桁のライセンスキーを入力します。
[ライセンスキーをインポート]	**a.** デバイスの有効なライセンスキーファイル (.csv) を参照し、**[開く]** を選択します。 ディーラーから .csv ファイルが提供されていない場合、デバイスのシリアル番号とライセンスキー用の列を含む .csv 形式のライセンスキーファイルを作成します。.csv ファイルの内容が正しくない場合は、**[はい]** を選択します。 **b.** 「ライセンスキーのマッピング」ダイアログボックスで、各プロパティーのマッピング値を選択します。.csv ファイルの最初の行にヘッダーが含まれる場合は、**[ファイルにヘッダーあり]** を選択します。

必要に応じて、**[ライセンスキーをエクスポート]** を選択して、ライセンスキーを .csv ファイルに保存することができます。

6 インストール時にアプリケーションを起動していない場合、「ライセンスキーを適用」ページは表示されません。**[次へ]** を選択します。

7 **[OK]** を選択します。

8 設定を確認し、**[完了]** を選択してアプリケーションをインストールします。
インストールが終了したら、**[ログの保存]** を選択してインストールのログファイル (.csv) を保存できます。

複数のデバイスでインストールされたアプリケーションを起動する

1 任意のデバイスビューから複数のデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[アプリケーションの管理]** に移動します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 **[アプリケーションを起動する]** を選択し、**[次へ]** を選択します。

3 アプリケーションの選択方法を選択します。

オプション	操作
[アプリケーションパッケージを指定]	a. **[次へ]** を選択し、有効なインストールパッケージファイル (.pkg) を参照します。 b. **[次へ]** を選択し、手順 8 に進みます。
[デバイスにインストールされているアプリケーションを指定]	**[次へ]** を選択します。

4 デバイスを選択し、**[次へ]** を選択します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

5 起動するアプリケーションを選択し、**[次へ]** を選択します。

6 ライセンスキーを選択する方法を選択します。

オプション	操作
[ライセンスキーなしで起動]	次のステップに進みます。
[次のライセンスキーを使用]	デバイスを選択し、20 桁のライセンスキーを入力します。

オプション	操作
[ライセンスキーをインポート]	**a.** デバイスの有効なライセンスキーファイル (.csv) を参照し、**[開く]** を選択します。 ディーラーから .csv ファイルが提供されていない場合、デバイスのシリアル番号とライセンスキー用の列を含む .csv 形式のライセンスキーファイルを作成します。.csv ファイルの内容が正しくない場合は、**[はい]** を選択します。 **b.** 「ライセンスキーのマッピング」ダイアログボックスで、各プロパティーのマッピング値を選択します。.csv ファイルの最初の行にヘッダーが含まれる場合は、**[ファイルにヘッダーあり]** を選択します。ファイルの最初の行は無視され、データだけが使用されます。

必要に応じて、**[ライセンスキーをエクスポート]** を選択して、ライセンスキーを .csv ファイルに保存することができます。

7 **[次へ]** を選択します。

8 設定を確認し、**[完了]** を選択してアプリケーションを起動します。
アプリケーションの起動が終了したら、**[ログの保存]** を選択して起動ログファイル (.csv) を保存できます。

複数のデバイスでアプリケーションをアンインストールする

1 任意のデバイスビューから複数のデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[アプリケーションの管理]** に移動します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 **[アプリケーションを停止する]** を選択し、**[次へ]** を選択します。

3 次のいずれかを選択します。

オプション	操作
[アプリケーションパッケージを指定]	a. **[次へ]** を選択し、有効なインストールパッケージファイル (.pkg) を参照します。 b. **[次へ]** を選択し、手順 6 に進みます。
[デバイスにインストールされているアプリケーションを指定]	**[次へ]** を選択します。

4 デバイスを選択し、**[次へ]** を選択します。

ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

5 停止するアプリケーションを選択し、**[次へ]** を選択します。

6 設定を確認し、**[完了]** を選択します。

複数のデバイスでプリケーションをアンインストールする

1 任意のデバイスビューから複数のデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[アプリケーションの管理]** に移動します。

ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 **[アプリケーションをアンインストールする]** を選択し、**[次へ]** を選択します。

3 アプリケーションの選択方法を選択します。

オプション	操作
[アプリケーションパッケージを指定]	a. **[次へ]** を選択し、有効なインストールパッケージファイル (.pkg または .fwp) を参照します。 b. **[次へ]** を選択し、手順 6 に進みます。
[デバイスにインストールされているアプリケーションを指定]	**[次へ]** を選択します。

4 デバイスを選択し、**[次へ]** を選択します。

ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

5 アンインストールするアプリケーションを選択し、**[次へ]** を選択します。

6 設定を確認し、**[完了]** を選択してアプリケーションをアンインストールします。

アプリケーションを検索する

1. 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[アプリケーション]** に移動します。
   ログイン情報の提供が必要になる場合があります。
2. 検索可能なフィールドのメニューで、**[名前]** または **[バージョン]** を選択します。
3. 検索テキストボックスに、検索するテキストを入力します。

   検索結果をクリアしてリスト全体をもう一度表示するには、ツールバーで **[サーチのクリア]** を選択します。

Cloud access を使用

この機能を使うと、リンクされたクラウドサービスアカウントのいずれかを使用して印刷またはスキャンできます。**[Kyocera Net Viewer]** では、プリンターのクラウド接続やその他の設定を管理できます。この機能にアクセスするには、以下の手順を実行します。

1. 任意のデバイスビューから、デバイスを右クリックし、**[編集]** > **[Cloud access]** に移動します。
2. デバイス資格情報を使用してログインします。

   クラウド接続を更新するには、以下のいずれかを実行します。
   - **[Cloud access ボックス]** で **[更新]** を選択します。
   - [クラウド接続] を右クリックして、**[更新]** を選択します。

クラウド接続を追加

1. **[Cloud access ボックス]** で **[追加]** を選択します。
2. 次の設定を構成します。

   ID

   希望する ID 番号を選択します。

   次に使用可能な番号を使用するには、**[自動]** を選択します。

   名前

   希望する名前を入力します。

   フリガナ

   希望するエイリアスを入力します。

   この設定は、一部の国または地域でのみ利用可能です。

ホスト名
ホスト名を入力します。

ポート番号
ポート番号を入力します。

3 **[OK]** を選択します。

クラウド接続を削除

1 **[Cloud access ボックス]** で、1 つまたは複数のクラウド接続を選択します。

2 次のいずれかを行います。

- **[削除]** > **[はい]** を選択します。
- 右クリックして、**[削除]** > **[はい]** を選択します。

クラウド接続設定の編集

クラウド接続設定を表示して編集します。

1 **[Cloud access ボックス]** で、クラウド接続を 1 つ選択します。

2 次のいずれかを行います。

- **[プロパティー]** を選択します。
- 右クリックして、**[プロパティー]** を選択します。

3 次の設定を変更します。

名前
希望する名前を入力します。

フリガナ
希望するエイリアスを入力します。

この設定は、一部の国または地域でのみ利用可能です。

ホスト名
ホスト名を入力します。

ポート番号
ポート番号を入力します。

4 **[OK]** を選択します。

デバイス通知を設定する

デバイス状況の変更の通知を管理します。通知は、1 つ以上のイベントがトリガーとなります。たとえば、紙づまりで通知を実行するように設定することができます。

メール通知を送信する前に、次を確認します。

- TCP ポート 25 が使用可能であり、ファイアウォールまたはウィルススキャナーでブロックされていないこと。
- メール設定が、**[編集]** > **[オプション]** > **[メール設定]** で構成されていること。

1. 1 つ以上のデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[通知設定]** に移動します。
2. 1 つ以上の通知のアクションを選択します。

   ポップアップウィンドウを表示
   通知がトリガーされるたびにポップアップウィンドウを表示します。

   Windows のイベントログを表示
   Windows のイベントログを開き、トリガーされた通知を表示します。

   次のアドレスにメールを送信
   指定されたメールアドレスに通知を送信します。テキストボックスに、メールアドレスをコンマで区切って入力します。
3. 通知のトリガーとなるイベントを 1 つ以上指定します。

   お使いのデバイスによっては、オプションが異なる場合があります。
4. **[OK]** を選択します。

デバイス通信設定を構成する

デバイスで認証が有効な場合、アドレス帳、ユーザー、または文書ボックスなどのデバイス機能にアクセスするには、通信設定でログイン情報を正しく設定する必要があります。

1. 任意のデバイスビューまたは部門デバイスビューから、管理対象デバイスを右クリックし、**[通信設定]** を選択します。
2. お使いのデバイスに応じて、使用可能な設定を変更します。

設定	操作
ネットワークインターフェイス設定 デバイスに接続された各ネットワークインターフェイスカードの設定が表示されます。	次の使用可能な設定を編集するには、プライマリーネットワークカードを選択します。 **TCP/IP ポート** デバイスに設定されているポート番号を入力します。一部の操作では、ロジカルデバイスポート経由でコマンドまたはコマンドファイルが送信されます。プリントデバイスのホームページで、ポート番号を設定します。 **通信タイムアウト (秒)** アプリケーションがデバイスとの接続確立を試行する秒数。 **SNMP 通信の再試行** デバイスとの通信エラー後に通信確立を再試行する回数。 **Command Center 管理者パスワード** ウェブインターフェイス経由でデバイスにアクセスするためのパスワード。 **SNMP v1/v2 を使用** デバイスのリードコミュニティー名とライトコミュニティー名を入力します。 リードコミュニティー名とライトコミュニティー名は、SNMP のすべての送受信要求とともに送信されます。それらの名前は、デバイス上のコミュニティー名の値と一致している必要があります。 **SNMP v3 を使用** デバイスに設定されているログイン情報を入力し、認証および

設定	操作
	プライバシー設定を設定します。
セキュアプロトコル設定 Transport Layer Security (TLS) は、ネットワーク通信時のセキュリティーを提供する暗号プロトコルです。	次の中から選択します。 • HTTPS を使用する場合、**[TLS]** を選択します。 • HTTP を使用する場合、**[TLS]** をクリアします。
ログイン 選択したデバイスでサポートされている場合、ユーザーログイン情報を設定します。	希望するビューに応じて、次のログインオプションを入力します。 • ユーザー情報の切替 • ログインユーザー名とパスワード • 認証モードの切替
部門ポーリング設定 部門カウンター情報の確認のため、指定した間隔でデバイスがポーリングされます。	**a.** **[部門カウンターのポーリング]** を選択します。 **b.** ポーリング情報の定期スケジュールを設定します。
デバイスポーリング設定 指定された間隔でデバイスのエラーや動作の状態、トナー残量などがポーリングされます。 部門ビューで選択したデバイスの場合、「ステータスのポーリング」設定のみ使用可能です。	次のポーリングモードを特定の間隔で設定します。 **ステータスのポーリング** エラー状況、パネルメッセージ、および動作モードなど、デバイスの現在の動作状態に関する情報が収集されます。 **カウンターのポーリング** カラー印刷ページ数、白黒印刷ページ数、受信したファクスの数など、デバイスに記録されている各種カウンターの値に関する情報が収集されます。 **トナー量のポーリング** デバイスの現在のトナー残量に関する情報が収集されます。

3 **[OK]** を選択します。

拡張機能メニュー

拡張機能メニューにアクセスするには、**[デバイス]** > **[拡張機能]** に移動します。次の設定を使用できます。

お使いのデバイスによっては、設定およびオプションが異なる場合があります。

複数のデバイスを設定

複数のデバイスに構成パラメーターを同時に送信します。

デバイスを再起動

デバイスまたはデバイスネットワークをリモートで再起動します。

アプリケーションの管理

デバイスでアプリケーションをインストール、アンインストール、アクティブ化、または非アクティブ化します。

オプション機能を管理

1 つ以上のデバイスでインストールされているオプション機能を起動します。

証明書を管理

暗号化されたデバイスの認証と通信情報を含む、有効な (有効期限内の) 証明書をインポート、割り当て、削除します。

バックアップの管理と復元

デバイス上のデータをバックアップまたは復元します。

ファームウェアのアップグレード

最新のファームウェアをデバイスにインストールします。

デバイスデフォルト設定

両面印刷、印刷品質、ファクス設定など、選択したデバイスのデフォルト設定を設定します。一回に選択できるのは 1 台のデバイスのみです。

デバイスシステム設定

操作パネルの言語、タイマー設定、パネルロックなど、選択したデバイスのシステム設定を設定します。一回に選択できるのは 1 台のデバイスのみです。

デバイスネットワーク設定

IP アドレス、メール設定、プロトコル設定など、選択したデバイスのネットワーク設定を設定します。一回に選択できるのは 1 台のデバイスのみです。

ドライバーをインストール

お使いのプリンターにプリンタードライバーをインストールします。

ドライバーをアップグレード

プリンタードライバーを新しいバージョンにアップグレードします。

ドライバーをアンインストール

プリンタードライバーをアンインストールします。

認証設定

ユーザーログインと LDAP 設定、ID が不明のジョブの許可など、選択したデバイスの認証設定を設定します。一回に選択できるのは 1 台のデバイスのみです。

ネットワークグループ

グループ認可で使用するグループの作成や、有効化および無効化を行います。

メディアグループ

用紙グループ設定を表示し、用紙グループをデバイスにインポートまたはエクスポートします。

サイズプロファイルリスト

サイズプロファイルリストを表示し、デバイスへインポートまたはエクスポートします。

プロファイルを管理

用紙グループ、サイズプロファイル、ICC プロファイルデータをデバイスにインポートまたはエクスポートします。

TCP/IP 送信データ

1 つまたは複数の選択したデバイスのインターフェイスに、データを直接送信します。

リモートサービス

この設定を使用して、接続モードとプロキシー設定を構成し、Kyocera Fleet Services がデバイスと通信してリモートメンテナンスを実行できるようにします。

デバイスを登録

この機能は、デバイスが Kyocera Fleet Services に未登録の場合にのみ有効です。

デバイスマルチセット

デバイスマルチセットを使用して、構成パラメーターを 1 つまたは複数のデバイスに同時に送信します。

クイックモードでデバイスの設定を作成する

1. 1 つまたは複数のデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[複数のデバイスを設定]** に移動します。
2. マルチセットモードで、**[クイックモード]** > **[次へ]** を選択します。
3. デバイスグループで、設定を適用するグループを 1 つまたは複数選択し、**[次へ]** を選択します。
4. ソースデバイスで、デバイスをリストから選択し、**[次へ]** を選択します。

ローカル認証が有効な場合、管理者はデバイスの通信設定にあるログインセクションでログイン情報を指定する必要があります。マルチセットを正しく完了するには、通信設定のソースと対象のデバイスに対するすべての設定およびパスワードが正しく入力されている必要があります。

5 設定を確認します。

- 同意するには、**[完了]** を選択します。
- 変更するには、**[戻る]** を選択します。

設定を保存するためにデバイスの再起動が必要な場合は、メッセージが表示されます。**[OK]** を選択して閉じます。

カスタムモードでデバイスの設定を作成する

カスタムモードでは、設定をカスタマイズして、1 つまたは複数のデバイスグループにコピーできます。コピーする設定および使用する方法を選択します。

1 任意のデバイスビューから 1 つまたは複数のデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[複数のデバイスを設定]** に移動します。

2 **[カスタムモード]** を選択して、**[次へ]** を選択します。

3 1 つまたは複数のグループを選択し、**[次へ]** を選択します。

4 対象デバイスにコピーする 1 つまたは複数の設定を選択し、**[次へ]** を選択します。

お使いのデバイスによっては、オプションが異なる場合があります。

デバイスシステム設定
デバイスの基本設定には、操作パネルの言語、タイマー、セキュリティーオプションなどがあります。

デバイスネットワーク設定
TCP/IP、セキュリティー、およびネットワーク構成の基本設定です。

デバイスデフォルト設定
印刷、コピー、ファクスジョブなどのデバイス機能のデフォルト動作を定義する設定で、用紙サイズ、印刷とスキャン品質、およびデフォルトの用紙種類が含まれます。

デバイス認証設定
デバイスにアクセスするローカルまたはネットワーク認可を定義する設定です。

デバイスユーザーリスト
各デバイスのユーザーアカウントに関する情報です。

デバイスアドレス帳
メール、FTP、ファクスなどのアドレス情報です。

部門別アドレス帳
複数の部門別アドレス帳および他の設定を管理します。

デバイス文書ボックス
ユーザーボックスおよびファクスボックスです。

デバイスネットワークグループ
グループ認可で使用するグループの作成や、グループの有効化および無効化を行います。

デバイスバーチャルメールボックス
ID、名前、および最大サイズを含むバーチャルメールボックスが含まれています。

リモートサービス設定
リモートメンテナンスの接続モードおよびプロキシー設定です。

デバイスの Cloud Access
クラウド接続やその他の設定を管理します。

5 次のいずれかを選択し、**[次へ]** を選択します。

一部の設定では、**[ターゲットデバイスの上書き保存許可]** を選択します。選択すると、設定テンプレートが現在の対象デバイスの設定にコピーされます。

オプション	操作
デバイスから作成 ソースデバイスからデバイス設定をコピーします。	ソースデバイスページで、リストからデバイスを 1 つ選択し、**[次へ]** を選択します。 認証を求められたら、ログイン情報を入力します。

オプション	操作
ファイルから作成 ファイルからデバイス設定をコピーします。	**a.** **[参照]** を選択し、希望するファイルを探します。 お使いのデバイスによっては、サポートされている形式が異なる場合があります。 **b.** **[開く]** を選択し、**[次へ]** を選択します。 **c.** デバイスユーザーリスト、デバイスアドレス帳、あるいは、デバイス文書ボックスと .csv ファイルが選択されている場合、次を実行します。 **1.** 各プロパティーに対して、マッピング値を選択します。選択されていない項目はスキップされます。 **2.** .csv ファイルの最初の行にヘッダーが含まれる場合は、**[ファイルにヘッダーあり]** を選択します。ファイルの最初の行は無視され、データだけが使用されます。 **d.** **[次へ]** を選択します。
新規作成 デバイス設定テンプレートを新規作成します。 デバイスグループで 1 つ以上のデバイスが選択されている場合、このオプションは使用できません。	複数のオプションが選択されている場合、次を行います。 **a.** リストから設定グループを選択し、**[設定を編集]** を選択します。 **b.** **[OK]** > **[閉じる]** を選択します。

6 選択内容を確認します。

[設定を編集] が使用可能な場合、このオプションを選択して設定の変更ができます。設定をファイルに保存する場合は、**[ファイルに保存]** を選択します。複数の設定を選択した場合、ファイルは .zip ファイルとして保存されます。変更が必要な場合は **[戻る]** を選択します。

マルチセットテンプレート (.zip) ファイルは、このアプリケーションのみから生成された XML ファイルで構成されています。

7 **[完了]** を選択します。

設定を保存するためにデバイスの再起動が必要な場合は、メッセージが表示されます。**[OK]** を選択して閉じます。

- プロセスが正しく完了すると、プロパティーまたは設定は、ソースデバイスから対象のデバイスにコピーされます。**[閉じる]** を選択します。
- プロセスが正しく完了しない場合、**[詳細]** を選択するとエラーリストが表示されます。.csv ファイルにエラーリストを保存するには、**[エクスポート]** を選択します。

デバイスまたはデバイスネットワークインターフェイスを再起動する

この機能を使うと、1 つ以上のデバイスまたはデバイスネットワークインターフェイスをリモートで再起動できます。

1 1 つまたは複数のデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[デバイスを再起動]** に移動します。

2 再起動のタイプを選択し、**[次へ]** を選択します。

デバイス再起動
選択したプリントデバイスを再起動します。

ネットワーク再起動
選択したプリントデバイスのネットワークインターフェイスを再起動します。

3 選択項目を確認し、**[完了]** を選択します。
認証が必要な場合、ログイン情報を入力します。

.csv ファイルに結果を保存するには、**[エクスポート]** を選択します。

オプション機能を管理

「オプション機能を管理」を使用すると、1 台以上のデバイスでオプション機能を起動できます。これらの機能はデバイスファームウェアに含まれています。管理者が持っているアクティベートに必要な 20 桁のライセンスキーを使用するか、機能の体験版を使用します。

複数のデバイスでオプション機能を起動する

1 複数のデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[オプション機能を管理]** に移動します。

2 機能名を選択し、**[次へ]** を選択します。

3 **[正規]** または **[体験版]** を選択し、**[次へ]** を選択します。
体験版を選択した場合、手順 6 に進みます。

4 ライセンスキーを追加するデバイスを選択します。デバイスは、同じまたは異なるライセンスキーを使用することができます。

オプション	操作
[ライセンスキーを追加]	**a.** 20 桁のライセンスキーを入力します。 **b.** **[OK]** を選択します。 **c.** **[ライセンスキーをエクスポート]** を選択して、ライセンスキーを .csv ファイルに保存します。
[ライセンスキーをインポート]	**a.** ディーラーから提供された有効なライセンスキーファイル (.csv) を参照します。 デバイスのシリアル番号とライセンスキー用の列を含むライセンスキーファイルを作成することができます。 **b.** .csv ファイルの内容が正しくない場合は、**[はい]** を選択します。 **1.** 「ライセンスキーのマッピング」ダイアログボックスで、各プロパティーのマッピング値を選択します。 **2.** .csv ファイルの最初の行にヘッダーが含まれる場合は、**[ファイルにヘッダーあり]** を選択します。ファイルの最初の行は無視され、データだけが使用されます。

[ライセンスキーをエクスポート] を選択して、ライセンスキーを .csv ファイルに保存します。

5 **[次へ]** を選択します。

6 設定を確認し、**[開始]** を選択します。
ライセンスの進行状況と結果が表示されます。アプリケーションの起動が終了したら、**[ログの保存]** を選択して起動ログファイル (.csv) を保存できます。

1 台のデバイスでオプション機能を起動する

1 デバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[オプション機能を管理]** に移動します。

認証が必要な場合、ログイン情報を入力します。

2 次の起動オプションから選択します。

オプション	操作
[ライセンスを起動]	a. 機能を選択し、**[ライセンスを起動]** を選択します。 b. 20 桁のライセンスキーを入力し、**[OK]** を選択します。 c. **[はい]** を選択します。 必要に応じて、**[エクスポート]** を選択し、.csv ファイルに結果を保存します。
[体験版を起動] 一部の機能は体験版の起動ではサポートされていません。	a. 1 つまたは複数の機能を選択し、**[体験版を起動]** を選択します。 b. **[はい]** を選択します。 必要に応じて、**[エクスポート]** を選択し、.csv ファイルに結果を保存します。

3 **[閉じる]** を選択します。

バックアップの管理と復元

デバイスにデータのバックアップを管理し、復元します。バックアップを作成してデータを復元する前に、**[拡張機能]** > **[デバイスシステム設定]** で、最初に バックアップおよび復元の設定 を構成する必要があります。

バックアップがデフォルトで選択されています。

バックアップを作成する

1 任意のデバイスビューから、デバイスを右クリックし、**[拡張機能]** > **[バックアップの管理と復元]** に移動します。

2 **[バックアップ]** を選択します。

3 詳細を確認して、次のいずれかを行います。

バックアップ処理中にはデバイスを停止しないでください。

- 設定を確認または変更するには、**[戻る]** を選択します。
- 継続するには、**[開始]** を選択します。
- 操作を終了するには、**[キャンセル]** を選択します。

バックアップ処理中に「キャンセル」を選択しても、すぐに処理が停止しない場合があります。その場合、一部のバックアップ処理が、デバイス側で完了する可能性があります。

データを復元する

1 任意のデバイスビューから、デバイスを右クリックし、**[拡張機能]** > **[バックアップの管理と復元]** に移動します。

2 **[復元]** を選択して、**[復元リスト]** から復元するバックアップデータを選択します。**[次]** を選択します。

3 リストから 1 つ以上の対象データを選択して、**[次へ]** を選択します。
パスワードの提供が必要になる場合があります。

パスワードは、バックアップおよび復元の設定 で設定したパスワードと同じでなければなりません。

[次へ] を選択します。

4 詳細を確認して、次のいずれかを行います。

- 設定を確認または変更するには、**[戻る]** を選択します。
- 継続するには、**[開始]** を選択します。
- 操作を終了するには、**[キャンセル]** を選択します。

ファームウェアをアップグレードする

管理者またはディーラーから提供されたマスターファイルから、より新しいバージョンのファームウェアを 1 台以上のデバイスに展開できます。

- マスターファイルのバージョンが、デバイスファームウェアのバージョンよりも古い場合、ファームウェアのレベルはダウングレードされます。
- TCP ポート 800 - 899 がファイアウォールまたはウィルススキャナーでブロックされていないことを確認してください。
- プロセス中にはデバイスの電源が入っているようにしてください。
- 使用するロジカルプリンターの「ジョブのはじめ」は空欄にする必要があります。デバイスのホームページに移動し、設定を確認します。
- ローカル認証がオンの場合、**[デバイス]** > **[通信設定]** > **[ログイン]** でログイン情報を指定する必要があります。一部のデバイスでは、ユーザー名とパスワードでのログインはサポートしていません。対象デバイスに対するすべての設定とパスワードが通信設定で正しく入力されている必要があります。

アップグレード中の重要な時点でデバイスがオフになったり停電になったりすると、デバイスは操作不能となり、故障したコンポーネントの交換サービスが必要になる場合があります。管理者またはサポートグループでこのプロセスをレビューし、緊急時の対応計画を立てます。

1. 任意のデバイスビューで、管理対象デバイスを最大 5 台選択します。
2. **[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[ファームウェアのアップグレード]** に移動します。
   選択したデバイスのファームウェアが異なる場合、ファームウェアのアップグレード機能は使用できません。
3. 警告情報を読みます。警告を理解し承諾する場合、チェックボックスをオンにし、**[次へ]** を選択します。
4. 有効なファームウェアファイルを参照し、**[次へ]** を選択します。
5. 詳細を確認します。
   - ファームウェアファイルの有効性を確認できない場合は、**[戻る]** を選択し、他のファームウェアファイルを参照します。
   - **[アップグレード]** を選択します。

     デバイスや詳細に問題がないことを確認します。
6. 結果を確認します。
   - 複数のデバイスをアップグレードする場合、**[キャンセル]** を選択し、キューに残っているデバイスのプロセスを中止できます。

     キャンセルを選択しても、処理中のデバイスには影響を与えません。
   - **[ログの保存]** を選択すると、ログを .csv ファイルとしてエクスポートできます。
   - **[閉じる]** を選択します。

認証設定を構成する

ローカルデバイスユーザーまたはネットワークユーザーのデバイス専用のログイン設定を管理します。

お使いのデバイスによっては、設定およびオプションが異なる場合があります。

1. 任意のデバイスビューから、管理対象デバイスを右クリックし、**[拡張機能]** > **[認証設定]** を選択します。

   - 認証設定を構成するには、管理対象のデバイスに接続する必要があります。
   - 各デバイスにこの手順を繰り返して、一度に最大 3 台のデバイスを構成できます。
2. お使いのデバイスに応じて、使用可能な設定を変更します。

設定	操作
[ユーザーログインを有効にする]	次のいずれかを選択します。 • **[ローカル認証を使用]** • **[ネットワーク認証を使用]** 他のネットワーク認証設定 (1 つ以上のドメイン名の設定、サーバータイプの選択、ホスト名の指定など) も構成できます。
[ID が不明のジョブを許可する]	選択した場合、すべてのユーザーがデバイスにアクセスできます。選択しない場合、デバイスはユーザーログインで構成されたユーザーに制限されます。 デバイスのユーザーログインを確認または変更するには、次を行います。 a. コントロールパネルで、**[デバイスとプリンター]** を選択します。 b. お使いのデバイスを右クリックし、**[プリンターのプロパティ]** を選択します。 c. **[デバイス設定]** > **[管理者設定]** > **[ユーザー管理]** に移動します。
[ローカル認可]	この機能をサポートするデバイスで、特定のユーザーによるジョブの使用を禁止します。
[簡単ログイン]	デバイスパネルでユーザーが部門を選択するよう設定し、必要に応じてログイン詳細の提供を求めます。
[PIN コードログイン]	ユーザーがデバイスで PIN コードを入力するよう設定します。 この設定が使用できるのは、「ネットワーク認証を使用」を選択した場合、およびサーバータイプが Ext. である場合のみです。

設定	操作
[ゲスト認可]	ゲストユーザーによる一部のデバイス機能へのアクセスを有効または無効にします。 ゲストユーザーのアクセスを確認または変更するには、次を行います。 a. デバイスを右クリックして、**[拡張機能]** > **[認証設定]** を選択します。 b. **[ユーザーログインを有効にする]** を選択します。**[ローカル認証を使用]** または **[ネットワーク認証を使用]** のいずれかを選択し、**[ゲスト認可]** > **[ゲスト認可デフォルト]** を選択します。 c. 希望する設定を選択して、**[OK]** を選択します。
[IC カードログイン設定]	キーボードログインとパスワード認証設定を構成できます。 この設定は、IC カード認証キットがデバイスで構成されている場合にのみ使用できます。
[ネットワークユーザープロパティー]	a. **[ネットワークユーザープロパティーの取得]** を有効または無効にします。 b. LDAP の設定で、次を指定します。 • **[サーバー名]** • **[ポート番号]** • **[検索のタイムアウト]** • **[暗号化]** • **[認証タイプ]** c. 「ユーザー情報の取得」で、LDAP サーバーからユーザー情報を検索するときにデバイスが使用する次の項目を指定します。 • **[名前 1]**、**[名前 2]** • **[E メールアドレス]**

3 **[OK]** を選択します。

ネットワークグループ

デバイス上で追加されたネットワークグループを管理します。

ネットワークグループを追加する

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[ネットワークグループ]** に移動します。

- 認証が設定されている場合、設定にアクセスするには、デバイスの通信設定で正しいログイン情報が必要になります。
- 認証が設定されていない場合、デバイスによってはログインダイアログボックスが表示される場合があります。

2 **[グループの追加]** を選択します。

3 グループ ID で、一意のグループ ID を入力します。

4 グループ名で、グループの名前を入力します。

5 アクセスレベルを **[ユーザー]** または **[管理者]** に設定します。

6 ジョブ認可設定セクションで、使用可能なデバイス機能にグループのアクセスを設定します。

デバイスがサポートしていない設定は無効になります。

許可

選択したデバイス機能へのアクセスを有効にします。

禁止

選択したデバイス機能へのアクセスを無効にします。

すべて許可

すべてのデバイス機能へのアクセスを有効にします。

両面制限、集約制限、およびエコプリント制限の設定は、**[オフ]** に設定されます。

すべて禁止

すべてのデバイス機能へのアクセスを無効にします。

両面制限、集約制限、およびエコプリント制限の設定は、最も高い制限オプションに設定されます。

7 **[OK]** を選択します。

編集するには、グループを選択し、**[プロパティー]** を選択します。必要に応じて、ジョブ認可設定を変更し、**[OK]** を選択します。

グループ ID と名前は編集できません。

削除するには、グループを選択し、**[グループの削除]** > **[はい]** を選択します。

「その他」グループは削除できません。このグループはアプリケーションで使用されています。

グループ認可を設定する

グループ認可を有効にすると、グループに設定された権限内でユーザーに操作を許可します。この機能は、すべてのネットワークグループのグループ認可をアクティブ化または非アクティブ化します。

1. 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[ネットワークグループ]** に移動します。

   - 認証が設定されている場合、設定にアクセスするには、デバイスの通信設定で正しいログイン情報が必要になります。
   - 認証が設定されていない場合、デバイスによってはログインダイアログボックスが表示される場合があります。

2. ツールバーから、**[グループ認可を使用]** を選択します。
3. **[オン]** を選択してグループ認可をアクティブ化するか、**[オフ]** を選択してグループ認可を非アクティブ化します。
4. **[OK]** を選択します。

グループリストを検索する

1. 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[ネットワークグループ]** に移動します。
2. 検索可能なフィールドのメニューで、検索するタイプを選択します。
3. 検索テキストボックスに、検索するテキストを入力します。

   検索結果をクリアしてリスト全体をもう一度表示するには、ツールバーで **[サーチのクリア]** を選択します。

用紙グループ

デバイスに関連付けられた様々な用紙グループを表示します。デバイスとの間で、用紙グループをインポートおよびエクスポートできます。各用紙グループのプロパティーの表示もできます。

用紙グループ設定を表示する

1. 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[用紙グループ]** に移動します。
   認証が必要な場合、ログイン情報を入力します。
2. 用紙グループを選択して、**[プロパティー]** を選択します。

3 設定を確認します。

4 **[閉じる]** を選択します。

用紙グループをインポートする

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[メディアグループ]** に移動します。
認証が必要な場合、ログイン情報を入力します。

2 **[インポート]** を選択します。

3 次のいずれかを行います。

- インポートするファイルのパスを指定します。
- インポートするファイルを参照します。

4 **[OK]** を選択します。

用紙グループをエクスポートする

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[メディアグループ]** に移動します。
認証が必要な場合、ログイン情報を入力します。

2 **[エクスポート]** を選択して、以下のいずれかを選択します。

- 用紙グループをエクスポート (.CSV)
- 用紙グループをエクスポート (.XML)

3 希望する保存先を参照して、**[保存]** を選択します。

サイズプロファイルリスト

デバイスに関連付けられた様々なサイズプロファイルを表示します。デバイスとの間で、サイズプロファイルをインポートおよびエクスポートできます。各サイズプロファイルのプロパティーの表示もできます。

サイズプロファイル設定を表示する

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[サイズプロファイルリスト]** に移動します。
認証が必要な場合、ログイン情報を入力します。

2 サイズプロファイルを選択して、**[プロパティー]** を選択します。

3 設定を確認します。

4 **[閉じる]** を選択します。

サイズプロファイルをインポートする

1. 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[サイズプロファイルリスト]** に移動します。
   認証が必要な場合、ログイン情報を入力します。
2. **[インポート]** を選択します。
3. 次のいずれかを行います。
   - インポートするファイルのパスを指定します。
   - インポートするファイルを参照します。
4. **[OK]** を選択します。

サイズプロファイルをエクスポートする

1. 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[サイズプロファイルリスト]** に移動します。
   認証が必要な場合、ログイン情報を入力します。
2. **[エクスポート]** を選択して、以下のいずれかを選択します。
   - サイズプロファイルをエクスポート (.CSV)
   - サイズプロファイルをエクスポート (.XML)
3. 希望する保存先を参照して、**[保存]** を選択します。

プロファイルを管理

用紙グループ、サイズプロファイル、ICC プロファイルデータをデバイスにインポートまたはエクスポートします。

1. 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[プロファイルを管理]** に移動します。
2. 以下のいずれかのオプションを選択して、**[次へ]** を選択します。
   - 用紙グループ
   - サイズプロファイル
3. 次のいずれかのオプションを選択して、**[次へ]** を選択します。

   デバイスから作成

   希望するソースデバイスを選択します。

   > 用紙グループ項目とサイズプロファイル項目の両方が選択されている場合は、ICC プロファイルデータをソースデバイスからターゲットデバイスにエクスポートできます。エクスポートするには、**[ICC プロファイルデータのエクスポート]** を選択します。必要に応じて、エクスポートしたファイルを保護するためのパスワードを入力します。

ファイルから作成

[参照] を選択して、指定された有効なファイルをインポートします。

用紙グループ項目とサイズプロファイル項目の両方が選択されている場合は、.zip ファイルが選択できます。必要に応じて、ファイルのパスワードを入力します。

4 **[次へ]** を選択します。

5 設定を確認し、**[完了]** を選択します。

ファイルに結果を保存するには、**[エクスポート]** を選択します。継続するには、**[閉じる]** を選択します。

TCP/IP データを送信する

この機能は、1 つ以上のデバイスのインターフェイスにデータファイル、テキスト、またはデバイスコマンドを直接送信します。

これは拡張機能です。使用方法を誤ると、デバイスが動作しなくなることがありますので、ご注意ください。

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[TCP/IP 送信データ]** に移動します。

- 認証が設定されている場合、設定にアクセスするには、デバイスの通信設定で正しいログイン情報が必要になります。
- 認証が設定されていない場合、デバイスによってはログインダイアログボックスが表示される場合があります。

2 次のいずれかの通信方法を選択します。

デフォルト TCP ポート

デバイス上で設定されたデフォルトの TCP ポートを使用します。

指定された TCP ポート

デバイス用に使用する TCP ポートを指定します。ポートメニューから、ポート番号を入力します。

ポート番号は、デバイスのホームページで定義したいずれかのロジカルデバイスと一致する必要があります。

IPPS

IPPS を使用してデータを送信します。パスのテキストボックスから、有効なパスを入力します。

3 次のデータタイプを 1 つ以上選択します。

- テキストとファイルを選択した場合、アプリケーションは先にテキストデータを送信してからファイルデータを送信します。
- アプリケーションはテキストボックスに表示される順に {#FILE#} コマンドとテキストを送信します。バイナリデータは、0x を付加した 16 進数バイト形式でテキストに表示できます。
- お使いのデバイスによっては、一部のオプションが使用できない場合があります。

種類	操作
[テキスト]	**a.** **[テキスト]** を選択します。 **b.** テキストフィールドで、送信するテキストを入力します。 • PRESCRIBE コマンドを送信できます。 • 直近で送信した 10 件のテキスト文字列にアクセスするには、**[履歴]** を選択します。
[ファイル]	**a.** **[ファイル]** を選択します。 **b.** 送信するファイルを参照します。マクロまたは印刷可能ファイル (.pdf、.prn ファイルなど) を送信できます。

4 **[送信]** を選択します。

リモートサービスを有効にする

リモートサービスを有効にしてデバイスを Kyocera Fleet Services に接続できます。

この機能は、一部のデバイスでのみ使用できます。

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[リモートサービス]** に移動します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 リモートサービスで、**[オン]** を選択します。

3 接続モードで、**[管理]** または **[監視]** を選択します。

4 管理を選択した場合、次の設定を構成します。

お使いのデバイスによっては、オプションが異なる場合があります。

有効期限

リモートサービスの有効期限を有効にし、設定します。

リモート操作

リモートサービスの使用を許可するユーザーを有効にし、設定します。

5 次のいずれかの設定を確認または変更します。

お使いのデバイスによっては、オプションが異なる場合があります。

AI 診断サービス

お使いのプリンターの自動ステータスモニタリングとメンテナンス通知を有効にします。

サーバー証明書の検証

次のサーバー検証プロパティーを構成します。

- デフォルト設定を使用
- 自動証明書の検証
- 失効確認のタイプ
- ハッシュ

プロキシー設定

プロキシーサーバーを使用する場合に追加設定を構成します。

6 **[OK]** を選択します。

デバイスを登録する

リモートメンテナンス用にデバイスを Kyocera Fleet Services に登録します。

この機能は、一部のデバイスでのみ使用できます。

1 任意のデバイスビューからデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[デバイスを登録]** に移動します。

2 要求される情報を入力します。

3 **[OK]** を選択します。

5 部門

お使いのデバイス上の部門、および特定の部門に関連付けられたデバイスを管理します。

デバイスを管理する

デバイスの管理時には、部門の作成と表示、通知とレポート機能の使用、およびカウンターの表示とリセットが可能です。

1 いずれかの部門デバイスビューで、デバイスを右クリックし、次のオプションのいずれかを選択します。

- **[デバイスの管理]**

  ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

- **[デバイスを管理対象外にする]**

  デバイスが管理対象外の場合、このアプリケーションで使用できる機能とオプションは限定されます。

2 管理対象外のデバイスの表示と非表示を切り替えるには、**[部門]** > **[管理対象外のデバイスの非表示 / 表示]** に移動します。

部門デバイスを追加する

1 任意の部門ビューで部門を選択し、**[部門]** > **[デバイスを部門に追加]** に移動します。

2 部門に追加するデバイスを 1 つまたは複数選択します。

管理対象のデバイスのみを追加できます。

3 **[OK]** を選択します。

新規部門を作成する

1 任意の部門デバイスビューで、1 つ以上の管理対象デバイスを選択し、**[部門]** > **[新規部門]** に移動します。

管理対象デバイスにのみ、新しい部門を作成することができます。

2 部門コードと名前を入力します。
必要に応じて、フリガナを入力します。

3 **[OK]** を選択します。

部門とデバイスを表示する

1 任意の部門ビューで、次のいずれかを実行します。

- 部門デバイスビューで、管理対象デバイスを選択します。
- 部門ビューで、部門を選択します。

2 選択内容に応じて、以下に進みます。

オプション	説明
[部門] > [この部門のデバイスを表示]	特定の部門に関連付けられているデバイスについての情報を表示します。 • デバイスを追加または削除する • 部門デバイスレポートをエクスポートする
[部門] > [このデバイスの部門を表示]	管理対象デバイスに関連付けられている部門についての情報を表示します。 • 新規部門を作成する • 既存の部門を追加または削除する • デバイス部門設定を管理する • デバイス部門レポートをエクスポートする

部門のプロパティーを表示する

カウンターに関する部門固有の情報を表示し、使用制限を設定します。

1 任意の部門デバイスビューで、管理対象デバイスをダブルクリックします。

デバイスに関連付けられている部門を表示するには、デバイスを管理対象にする必要があります。

2 部門をダブルクリックし、プロパティーを確認します。

お使いのデバイスによっては、プロパティーが異なる場合があります。

一般

部門コードと部門名 フリガナがある場合はフリガナ。

機能別のカウンター

印刷、コピー、またはファクス受信したページ数。

用紙別カウンター

各用紙サイズまたはタイプで使用されたページ数。

両面印刷/ページ集約のカウンター

片面印刷、両面印刷および 2 in 1 や 4 in 1 などのページ集約用のページ数。

スキャンページのカウンター

コピー、ファクス、その他の機能でスキャンされたページ数。

ファクス (送信) のカウンター

ファクスされたページ数、および合計送信時間。

タイムスタンプ

カウンターが最後に更新された日付と時刻。

機能別の使用制限

印刷、コピー、スキャン、またはファクス受信できるページ数の制限を設定します。

オフ

使用は制限されません。

カウンター制限

使用制限値を設定し、最大値に達した場合、カウンター値をリセットします。

使用禁止

使用が制限されます。

カウンターのリセット

すべてのデバイスカウンターを 0 にリセットします。

部門情報を更新するには、**[デバイスカウンターの更新]** を選択します。デバイスのカウンターを手動で更新する場合、**[部門]** > **[カウンターの更新]** に移動します。

3 **[OK]** を選択して変更を保存するか、**[キャンセル]** を選択します。

現在の部門の詳細をエクスポートする

任意の部門ビューから、すべての管理対象デバイスに関する部門の詳細を .csv または .xml ファイルにエクスポートできます。

.csv ファイルへのエクスポートには、UTF-8 エンコードが使用されます。

1 マイビューまたはデフォルトビューで、任意の部門ビューを選択します。

2 **[ファイル]** > **[エクスポート]** > **[部門]** に進み、オプションを選択します。

オプション	説明
[部門コード]	プリンタードライバーにインポート可能なすべての管理対象デバイスの部門リストをエクスポートします。 部門コードは、.csv ファイルにのみエクスポートできます。
[カウンター]	すべての管理対象デバイスと部門の詳細なカウンター情報をエクスポートします。
[情報]	一部のカウンター情報を含む、すべての管理対象デバイスの部門情報の概要をエクスポートします。

3 エクスポートの詳細を入力します。

- ファイルの場所
- ファイル名
- ファイルの種類

4 **[保存]** を選択します。

特定のデバイスまたは部門の詳細をエクスポートする

任意の部門ビューから、特定のデバイスまたは部門情報を .csv または .xml ファイルにエクスポートできます。

.csv ファイルへのエクスポートには、UTF-8 エンコードが使用されます。

1 マイビューまたはデフォルトビューで、任意の部門ビューを選択します。

- 任意の部門ビューで、1 つまたは複数の管理対象デバイスを選択し、**[部門]** > **[このデバイスの部門を表示]** に移動します。
- 任意の部門ビューで部門を選択し、**[部門]** > **[このデバイスの部門を表示]** に移動します。

2 1 つまたは複数のエントリーを選択し、**[エクスポート]** を選択します。

3 次のオプションから選択します。

オプション	説明
[部門コード]	プリンタードライバーにインポート可能な部門コードリストをエクスポートします。 部門コードは .csv ファイルにのみエクスポートできます。
[カウンター]	デバイスのカウンター情報をエクスポートします。

オプション	説明
[情報]	選択したカウンター情報を含む、デバイスの部門情報の概要をエクスポートします。
[プロパティー]	すべての部門のプロパティー情報をエクスポートします。 このオプションは、デバイスの部門でのみ使用可能です。

「このデバイスの部門を表示」を選択した場合、「デバイスの部門」エクスポートのオプションを選択した後にメッセージが表示されます。
- すべてのエントリーの詳細をエクスポートするには、**[はい]** を選択します。
- 選択した部門の詳細のみをエクスポートするには、**[いいえ]** を選択します。

4 エクスポートの詳細を入力します。
- ファイルの場所
- ファイル名
- ファイルの種類

5 **[保存]** を選択します。

カウンターレポートを追加する

部門ビューには、1 つ以上の部門のデバイスカウンター情報を含む 1 つのカウンターレポートを含めることができます。カウンターレポートは、定期的なメールで、.csv または .xml 形式の添付ファイルとして、1 人以上の受信者に送信できます。

カウンターレポートを追加するには、**[編集]** > **[オプション]** のメール設定を構成する必要があります。

1 マイビューで、任意の部門ビューを選択し、**[部門]** > **[カウンターレポートを追加]** に移動します。

2 設定を構成します。

デバイスのカウンターレポートが問題なく送信された際に、デバイスのカウンターをゼロにリセットするには、**[カウンターの自動リセット]** を選択します。

3 **[OK]** を選択します。

最大 5 つのカウンターレポートを追加できます。

既存の現在のレポートのリストを表示するには、**[部門]** > **[カウンターレポートの表示]** に移動します。

- レポートの設定を表示または変更するには、レポートを選択し、**[プロパティー]** を選択します。
- 1 つ以上のレポートを削除するには、1 つ以上のレポートを選択し、**[削除]** を選択します。

カウンターを手動でリセットするには、任意の部門ビューから 1 つ以上の管理対象デバイスまたは部門を選択し、項目を右クリックして、**[カウンターをリセット]** を選択します。

部門カウンターステータス通知を設定する

通知設定を構成することで、いずれかの部門のデバイスカウンターが警告レベルまたはカウンター制限を超えた場合に通知を受け取ることができます。

この通知設定オプションは、管理対象デバイスにのみ使用可能です。

1. 任意の部門デバイスビューで、管理デバイスを右クリックし、**[通信設定]** を選択します。
2. 1 つまたは複数の通知方法を選択します。
   - **[ポップアップウィンドウを表示]**
   - **[Windows のイベントログを表示]**

     Windows のイベントログを参照するには、Windows イベントビューアーで、**[イベントビューアー (ローカル)]** > **[Windows ログ]** > **[Application]** でアプリケーションのイベントを検索します。
   - **[次のアドレスにメールを送信]**

     - TCP ポート 25 が使用可能であり、ファイアウォールまたはウィルススキャナーで開放されている必要があります。
     - **[編集]** > **[オプション]** で、メール設定を構成する必要があります。
     - メールアドレスは 3 件までのみ追加できます。
3. 通知のトリガーとなるイベントを 1 つ以上選択します。
   - **[カウンターが警告レベルを超えたら通知する]**
   - **[カウンターがカウンター制限を超えたら通知する]**
4. **[OK]** を選択します。

デバイスの部門管理設定を構成する

デバイスの部門管理設定を使用して、管理対象デバイスを制御または監視します。

1. 任意の部門デバイスビューで、管理デバイスを右クリックし、**[デバイスの部門管理設定]** を選択します。

   ログイン情報の提供が必要になる場合があります。
2. 印刷設定を確認します。

お使いのデバイスによっては、設定が異なる場合があります。

一般

ネットワークと部門情報を参照します。

部門管理

さまざまなデバイス機能の部門管理を有効または無効にします。

用紙種類

各カウンターの用紙サイズおよび用紙種類を設定します。

エラーハンドリング

不正な部門エラーの発生時、またはカウンター制限を超えた場合に、エラーレポートを印刷、警告を表示、またはジョブをキャンセルします。

その他

デバイスの部門がないジョブの処理を許可または禁止したり、印刷とコピーのカウンターを分離または集約したりするよう選択します。

3 **[OK]** を選択します。

部門のマルチセット

部門リストおよびデバイス部門設定を複数のデバイスに同時に展開します。

1 任意の部門デバイスビューで、設定を変更する 1 つまたは複数の管理対象デバイスを選択します。

管理対象デバイスに接続している必要があります。

2 選択したデバイスを右クリックし、**[複数の部門デバイスを設定]** を選択します。

3 マルチセットを適用するデバイスグループを選択します。

- マルチセットをサポートするデバイスのみが表示されます。
- デバイスは、モデルグループ別に編成されます。

4 デバイスグループに適用する設定のタイプを選択し、**[次へ]** を選択します。

デバイスの部門管理設定

部門管理、用紙種類、エラーハンドリング、部門コードがないジョブの処理を許可、およびコピーカウンター設定の設定が含まれます。

部門リスト

デバイスの部門に関連する印刷、コピー、スキャン、およびファクスのカウンター情報が含まれます。

5 マルチセットのオプションを選択し、**[次へ]** を選択します。

- 部門リストで、**[ターゲットデバイス設定の上書き保存]** を選択します。選択した場合、既存のカウンターをリセットするかどうかを指定します。
- デバイス管理では、マルチセットはすべての設定を自動的に上書きします。

オプション	操作
[デバイスから作成]	ソースデバイスを選択し、**[次へ]** を選択します。
[ファイルから作成]	マルチセットテンプレート (.xml または .csv) を参照し、**[開く]** > **[次へ]** を選択します。 必要に応じて、すべてのファイル選択の問題を解決し、このステップを繰り返します。 部門リストで、.csv テンプレートを選択した場合、ファイルの列をそれぞれの部門のプロパティーにマッピングする必要があります。マッピングされていない項目はスキップされます。ファイルの最初の行を無視するには、**[ファイルにヘッダーあり]** を選択します。

[新規作成]	• デバイスの部門で、デバイスの部門設定で使用可能な項目を構成し、**[OK]** を選択します。
	• 部門リストでオプションを選択します。
	  • 新規部門を追加するには、**[新規部門]** を選択し、部門情報を指定します。
	  • 既存の部門を追加するには、**[部門を追加]** を選択し、1 つ以上の項目をリストから選択します。それぞれの追加された部門について、プロパティーの確認と変更が可能です。

6 設定を確認します。

設定は、編集したり、ファイルに保存したりすることができます。

7 **[完了]** を選択します。

- 設定を保存するには、デバイスを再起動する必要がある場合があります。
- 必要に応じて、すべての問題を解決し、プロセスを繰り返します。
- .csv ファイルに結果を保存するには、**[エクスポート]** を選択します。
- **[閉じる]** を選択します。

6 ホスト

プリンタードライバーと印刷キューを管理します。ホストビューを使用すると、ホストコンピューターでプリンタードライバーをインストールしたり、アップグレードしたり、アンインストールしたりすることができ、また、ログイン設定を構成することもできます。

ホストの検出

この機能は、ネットワークのホストコンピューターを検索します。新しいホストが検出された場合、アプリケーションはそのホストの情報でデータベースを更新します。このプロセスは、単一または複数のホストに対して手動で実行するか、スケジュールに従って自動的に実行することができます。また、ホストを検出から除外することもできます。

ホストサービスを有効にする

アプリケーションがホストを検出するには、Windows Management Instrumentation (WMI) と Remote Procedure Call (RPC) サービスが、ホストコンピューターと、アプリケーションがインストールされているコンピューターで有効である必要があります。

署名済みドライバーの証明書をインストールする

ハードウェア関連のドライバーには、デジタル署名が必要です。署名済みドライバーをインストールする前に、Windows には信頼された証明書が必要です。Microsoft が署名したドライバーの場合、証明書はすでにインストールされています。製造元が署名したドライバーの場合、証明書をホストコンピューターにインストールする必要があります。

1. ドライバーパッケージから、オペレーティングシステムに応じて、適切なセキュリティーカタログ (.cat) ファイルを開きます。
2. **[署名の表示]** > **[証明書の表示]** > **[証明書のインストール]** を選択します。
3. ストアの場所を選択し、**[次へ]** を選択します。
4. **[証明書をすべて次のストアに配置する]** を選択し、**[参照]** をクリックします。
5. 「証明書ストアの選択」で、**[信頼された発行元]** を選択し、**[OK]** をクリックします。
6. **[次へ]** > **[完了]** を選択します。

WMI を有効にする

アプリケーションがホストを検出するには、Remote Procedure Call (RPC) サービスが、ホストコンピューターとアプリケーションがインストールされているコンピューターで有効である必要があります。

1. 各コンピューターで、**[スタート]** > **[コントロールパネル]** > **[システムとセキュリティ]** > **[Windows ツール]** > **[コンピューターの管理]** に進みます。
2. コンピューターの管理で、**[サービスとアプリケーション]** を選択します。
3. **[WMI コントロール]** を右クリックし、**[プロパティ]** を選択します。
4. セキュリティで、**[セキュリティ]** を選択します。
5. 「グループ名またはユーザー名」リストで、**[Administrators]** を選択します。
6. Administrators のアクセス許可で、**[リモートの有効化]** を許可します。

RPC を有効にする

アプリケーションがホストを検出するには、Remote Procedure Call (RPC) サービスが、ホストコンピューターとアプリケーションがインストールされているコンピューターで有効である必要があります。

1. 各コンピューターで、**[スタート]** > **[コントロールパネル]** > **[システムとセキュリティ]** > **[Windows ツール]** > **[コンピューターの管理]** に進みます。
2. コンピューターの管理で、**[サービスとアプリケーション]** > **[サービス]** > **[Remote Procedure Call (RPC)]** を選択します。
   サービスが起動していることを確認します。必要に応じて、**[Remote Procedure Call (RPC)]** を右クリックし、**[開始]** を選択します。

ホストを追加する

1. **[ホスト]** > **[検出]** > **[ホストの追加]** に進みます。
   ドメイン管理者のログイン情報を提供する必要がある場合があります。
2. オプションを選択して、**[次へ]** を選択します。

オプション	操作
現在のドメインを検索 ドメイン内のすべてのホストをスキャンします。	次のステップに進みます。

オプション	操作
Active Directory を参照 ドメイン内にある選択されたディレクトリーで、すべてのホストをスキャンします。	ドメイン内の Active Directory グループを選択します。
IP アドレス範囲を指定 ドメイン内の指定の IP アドレス範囲で、すべてのホストをスキャンします。	IPv4 または IPv6 の開始 IP アドレスと終了 IP アドレスを入力し、**[追加]** を選択して、「選択されたネットワークセグメント」リストに追加します。 IP アドレス範囲を削除するには、「選択されたネットワークセグメント」リストで選択してから、**[削除]** を選択します。
IP アドレスの指定 ドメイン内の特定のアドレスを使用してホストをスキャンします。	次の方法から選択します。 • IPv4 もしくは IPv6 アドレス、またはホスト名を入力し、**[追加]** を選択して「選択されたターゲット」リストに追加します。 • **[インポート]** を選択して、IP アドレスリストを使用します。 「選択されたターゲット」リストから IP アドレスまたはホスト名を削除するには、IP アドレスまたはホスト名を選択してから、**[削除]** を選択します。

3 定期検出のスケジュールを設定するか、**[次へ]** を選択してすぐに開始します。

4 詳細を確認して、**[完了]** を選択します。
新しく追加されたホストは、ホストビューに表示されます。

削除するには、ホストを右クリックし、**[削除]** を選択します。

ドライバー情報とキュー情報も削除されます。

自動ホスト検出のスケジュールを設定する

定期的な検出処理を実行するようスケジュールを設定します。ホストがネットワークに頻繁に追加される、またはネットワークから削除される場合、定期的に検出を実行すると、ホストデータベースを最新の状態に保つことができます。

1 **[ホスト]** > **[検出]** > **[自動検出]** に移動します。

2 「スケジュールされている検出」で、次のいずれかを行います。

- 新しい検出モードを作成するには、**[追加]** を選択します。定期検出のスケジュールを設定して、**[完了]** を選択します。
- 検出のスケジュールを削除するには、**[削除]** を選択します。
- 既存の検出モードを編集するには、**[プロパティー]** を選択します。定期検出のスケジュールを設定して、**[変更を適用]** を選択します。

3 **[閉じる]** を選択します。

検出からホストを除外する

セキュリティー上の理由から、ホストを検出処理から除外して、ビューから削除します。

1 ホストビューで、1 つまたは複数の除外するホストを選択します。

2 選択内容を右クリックして、**[削除]** を選択します。

削除されたホストを追加するには、**[ホスト]** > **[検出]** > **[除外されたホスト]** に移動し、1 つ以上のエントリーを選択して、**[ホストを含める]** を選択します。

キューを追加する

1 任意のホストビューから、**[ホスト]** > **[新しいキュー]** に移動します。

2 1 つまたは複数のホストを選択し、**[次へ]** を選択します。
ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

3 デバイスを選択し、**[次へ]** を選択します。

4 **[ディスク使用]** を選択し、デバイスに有効な .inf ファイルを参照します。

ホストのシステムタイプに応じて、32 ビットまたは 64 ビットのいずれか適切な .inf ファイルを選択してください。

5 **[OK]** > **[次へ]** を選択します。

6 各ホストのデバイス設定を確認します。

- 「選択されたプリンターモデル」で、各項目を選択して設定を編集します。
- **[共通設定]** を選択し、ホストに依存しない設定を構成します。

初期設定

[はい] を選択した場合、.kxp ファイルを参照します。ファイルをアップロードした後、使用可能なプロファイルからオプションを選択できます。

[いいえ] を選択した場合、初期設定のプロファイルは変更されません。

プラグイン

1 つまたは複数のオプションを選択します。

コメント

カスタマイズされたメモを共通設定に追加します。

開く

構成設定ファイル (.kvp) を参照します。

保存

共通設定を構成ファイルにエクスポートします。

- **[競合]** を選択し、特定の条件を満たしている場合のインストールの動作を管理します。

条件	オプション
プリンターが存在する場合	**設定を保持** 現在のデバイス設定は保持され、プリンターはインストールされません。 **上書き** 現在のデバイス設定は新しい構成に置き換えられます。
ドライバーが存在する場合	**何もしない** 現在のプリンタードライバー設定は保持され、新しいドライバーはインストールされません。 **アップグレード** 現在のプリンタードライバーは新しいバージョンにアップグレードされます。
共有名が存在する場合	**末尾に数字を追加** 追加の文字が既存の共有名に付加されます。 **失敗** デバイスはインストールされません。 **共有なし** デバイスはインストールされますが、共有がオフになります。
ポートが使用可能でない場合	**ファイル、LPT1** 選択したポートでインストールが試行されます。 **失敗** デバイスはインストールされません。

- .kvp ファイルからデバイス設定を追加するには、**[インポート]** を選択します。
- 現在のデバイス設定を .kvp ファイルとして保存するには、**[エクスポート]** を選択します。

7 **[次へ]** を選択し、設定を確認します。

8 **[完了]** をクリックして新しいキューを作成します。

9 キューの作成結果を確認します。

- 必要に応じて、すべての問題を解決し、プロセスを繰り返します。
- .txt ファイルに結果を保存するには、**[エクスポート]** を選択します。
- **[OK]** を選択します。

キューを削除するには、リストから選択し、**[キューの削除]** を選択します。

キュー名を編集する

1 任意のホストビューで、キューを右クリックし、**[名前の変更]** を選択します。

2 キューの新しい名前を入力し、**[編集]** を選択します。

3 結果を確認します。

- 必要に応じて、すべての問題を解決し、プロセスを繰り返します。
- **[完了]** を選択します。

プリンタードライバーの管理

プリンタードライバーアプリケーションは、デバイスからの出力をカスタマイズするための設定を提供します。プリンタードライバーは、ホストコンピューターにリモートでインストールできます。インストールすると、ドライバーをアップグレードまたはアンインストールできます。

- ホストプリンタードライバーを管理するには、ホストコンピューターに接続する必要があります。
- プリントスプーラーでクライアント接続を許可し、着信リモート管理の例外を許可するには、管理者は、Windows ローカルグループポリシーエディターでポリシーを設定する必要がある場合があります。

プリントスプーラーにクライアント接続を許可する

1 Windows グループポリシーエディターで、**[コンピューターの構成]** > **[管理用テンプレート]** > **[プリンター]** に移動します。

2 **[プリントスプーラーでクライアント接続を許可]** をダブルクリックします。

3 **[有効]** > **[OK]** を選択します。

プリントスプーラーを再起動して、ポリシーの変更を有効にします。

リモート管理の例外を許可する

1 Windows ローカルグループポリシーエディターで、**[コンピューターの構成]** > **[管理用テンプレート]** > **[ネットワーク]** > **[ネットワーク接続]** > **[Windows Defender ファイアウォール]** に移動します。

- コンピューターがドメイン上にある場合は、**[ドメインプロファイル]** を選択します。
- コンピューターがドメイン上にない場合は、**[標準プロファイル]** を選択します。

2 **[Windows Defender ファイアウォール: 着信リモート管理の例外を許可する]** をダブルクリックします。

3 **[有効]** > **[OK]** を選択します。

プリンタードライバーをインストールする

1 選択したビューに応じて、次を実行します。

ビュー	操作
デバイスビュー	**a.** 1 つ以上のデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[ドライバーをインストール]** に移動します。 **b.** 1 つ以上の接続されているホストコンピューターを選択し、**[次へ]** を選択します。 ログイン情報の提供が必要になる場合があります。 **c.** 各デバイスについて、**[ディスク使用]** を選択し、有効な .inf ファイルを参照します。 ホストのシステムタイプに応じて、32 ビットまたは 64 ビットのいずれかの適切な .inf ファイルを選択してください。 **d.** **[OK]** > **[次へ]** を選択します。

ビュー	操作
ホストビュー	**a.** 1 つ以上の接続されているホストコンピューターを選択し、**[ホスト]** > **[ドライバーのインストール]** に移動します。 **b.** デバイスのステータスに応じて、インストールのオプションを選択します。 • デバイスがデバイスビューに表示され、ネットワークで使用可能な場合は、**[デバイスありでドライバーをインストール]** > **[次へ]** を選択します。 **1.** デバイスを 1 つ以上選択し、**[次へ]** を選択します。 **2.** 各デバイスについて、**[ディスク使用]** を選択し、有効な .inf ファイルを参照します。 ホストのシステムタイプに応じて、32 ビットまたは 64 ビットのいずれかの適切な .inf ファイルを選択してください。 **3.** **[OK]** > **[次へ]** を選択します。 • デバイスがネットワークで使用できない場合は、**[デバイスなしでドライバーをインストール]** > **[次へ]** を選択します。 **1.** 各デバイスについて、**[ディスク使用]** を選択し、有効な .inf ファイルを参照します。 ホストのシステムタイプに応じて、32 ビットまたは 64 ビットのいずれかの適切な .inf ファイルを選択してください。 **2.** ドライバーを 1 つ以上選択します。 特定のドライバーを見つけるには、検索ボックスでドライバー名の入力を開始します。 **3.** **[次へ]** を選択します。

2 各ホストのデバイス設定を確認します。

- 「選択されたプリンターモデル」で、各項目を選択して設定を編集します。
- **[共通設定]** を選択し、ホストに依存しない設定を構成します。

初期設定

[はい] を選択した場合、.kxp ファイルを参照します。ファイルをアップロードした後、使用可能なプロファイルからオプションを選択できます。

[いいえ] を選択した場合、初期設定のプロファイルは変更されません。

プラグイン

1 つまたは複数のオプションを選択します。

コメント

カスタマイズされたメモを共通設定に追加します。

開く

構成設定ファイル (.kvp) を参照します。

保存

共通設定を構成ファイルにエクスポートします。

- **[競合]** を選択し、特定の条件を満たしている場合のインストールの動作を管理します。

条件	オプション
プリンターが存在する場合	**設定を保持** 現在のデバイス設定は保持され、印刷キューはインストールされません。 **上書き** 現在のデバイス設定は新しい構成に置き換えられます。
ドライバーが存在する場合	**何もしない** 現在のプリンタードライバー設定は保持され、新しいドライバーはインストールされません。 **アップグレード** 現在のプリンタードライバーは新しいバージョンにアップグレードされます。
共有名が存在する場合	**末尾に数字を追加** 追加の文字が既存の共有名に付加されます。 **失敗** デバイスはインストールされません。 **共有なし** デバイスはインストールされますが、共有がオフになります。

条件	オプション
ポートが使用可能でない場合	**ファイル、LPT1** 選択したポートでインストールが試行されます。 **失敗** デバイスはインストールされません。

- .kvp ファイルからデバイス設定を追加するには、**[インポート]** を選択します。
- 現在のデバイス設定を .kvp ファイルとして保存するには、**[エクスポート]** を選択します。

3 **[次へ]** を選択し、設定を確認します。

4 **[完了]** を選択します。

5 結果を確認します。

- 必要に応じて、すべての問題を解決し、プロセスを繰り返します。
- .txt ファイルに結果を保存するには、**[エクスポート]** を選択します。
- **[OK]** を選択します。

プリンタードライバーをアップグレードする

1 選択したビューに応じて、次を実行します。

ビュー	操作
デバイスビュー	**a.** 1 つまたは複数のデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[ドライバーをアップグレード]** を選択します。 **b.** 1 つ以上の接続されているホストコンピューターを選択し、**[次へ]** を選択します。 ログイン情報の提供が必要になる場合があります。
ホストビュー	1 つ以上の接続されているホストコンピューターを選択し、**[ホスト]** > **[ドライバーのアップグレード]** をクリックします。

2 各ホストでアップグレードするプリンタードライバーを 1 つ以上選択し、**[次へ]** をクリックします。

3 各デバイスについて、**[ディスク使用]** を選択し、有効な .inf ファイルを参照します。

ホストのシステムタイプに応じて、32 ビットまたは 64 ビットのいずれかの適切な .inf ファイルを選択してください。

4 **[OK]** > **[次へ]** を選択します。

5 設定を確認し、**[完了]** を選択します。

6 結果を確認します。

- 必要に応じて、すべての問題を解決し、プロセスを繰り返します。
- .txt ファイルに結果を保存するには、**[エクスポート]** を選択します。
- **[OK]** を選択します。

プリンタードライバーをアンインストールする

1 選択したビューに応じて、次を実行します。

ビュー	操作
デバイスビュー	a. 1 つ以上のデバイスを選択し、**[デバイス]** > **[拡張機能]** > **[ドライバーをアンインストール]** を選択します。 b. 1 つ以上の接続されているホストコンピューターを選択し、**[次へ]** を選択します。 ログイン情報の提供が必要になる場合があります。
ホストビュー	1 つ以上の接続されているホストコンピューターを選択し、**[ホスト]** > **[ドライバーのアンインストール]** に移動します。

2 各ホストでアンインストールするプリンタードライバーを 1 つ以上選択し、**[次へ]** をクリックします。

ドライバーを選択すると、関連付けられたキューも選択されます。

3 設定を確認し、**[完了]** を選択します。

4 結果を確認します。

- 必要に応じて、すべての問題を解決し、プロセスを繰り返します。
- .txt ファイルに結果を保存するには、**[エクスポート]** を選択します。
- **[OK]** を選択します。

追加のプリンタードライバーバージョンをインストールする

ホストコンピューターにインストールされた 32 ビットまたは 64 ビットのプリンタードライバーで、別のバージョン (それぞれ 64 ビットまたは 32 ビット) の追加ドライバーをインストールできます。

これは、クライアントのシステムとドライバーのバージョンが異なっているサーバー/クライアント環境で便利です。

1 ホストキュービューで、1 つまたは複数のキューを選択します。

2 選択肢を右クリックし、**[追加ドライバーをインストール]** を選択します。

3 各デバイスについて、**[ディスク使用]** を選択し、有効な .inf ファイルを参照します。

32 ビットまたは 64 ビットのいずれか適切な .inf ファイルを選択してください。

4 **[OK]** > **[次へ]** を選択します。

5 設定を確認し、**[完了]** を選択します。

6 結果を確認します。

- 必要に応じて、すべての問題を解決し、プロセスを繰り返します。
- .txt ファイルに結果を保存するには、**[エクスポート]** を選択します。
- **[OK]** を選択します。

追加されたプリンタードライバーは、いずれのホストビューにも表示されませんが、アンインストールまたはアップグレードすることができます。

プリンタードライバーまたは印刷キューを表示する

ホストのプリンタードライバーまたはホストの印刷キューを表示するには、ホストに接続している必要があります。

1 ホストビューで、ホストを右クリックし、以下のいずれかのオプションを選択します。

- **[プリンタードライバーの表示]**
- **[印刷キューを表示]**

ログイン情報の提供が必要になる場合があります。

2 **[更新]** を選択してリストを更新するか、**[OK]** を選択します。

ホストログイン設定を変更する

1 ホストビューで、ホストを選択し、**[ホスト]** > **[ホストログイン設定]** に移動します。

2 **[ホストへのアクセス時にこのログインを使用する]** を選択し、以下の項目を指定します。

- **[ユーザー名]**
- **[パスワード]**
- **[ドメイン]**

3 **[OK]** を選択します。

ドメイン管理者のログイン設定を選択する

ホスト情報とキュー情報を取得したり、リモートコンピューターを設定したりするために、管理者ログイン権限を設定します。

ドメインの管理者ログイン権限が設定されていない場合、ホストを追加する、またはプリンタードライバーを管理する際にダイアログボックスが表示されます。セキュリティー上の理由から、アプリケーションを終了すると情報は削除されます。

1. 任意のビューで、**[ホスト]** > **[ドメイン管理者ログイン設定]** をクリックします。
2. 次のいずれかのオプションを選択します。
   - **[現在の Windows ログイン設定を使用する]**
   - **[ドメイン管理者ユーザー名とパスワードを指定する]**

   ユーザー名、パスワードおよびドメインを指定します。
3. **[OK]** を選択します。

ホスト情報をエクスポートする

1. 任意のホストビューで、1 つまたは複数のホストを選択し、**[ファイル]** > **[エクスポート]** > **[ホスト]** へ移動します。
2. エクスポートの詳細を入力します。
   - ファイルの場所
   - ファイル名
   - ファイルの種類
3. **[保存]** を選択します。

デバイス設定を構成する

1. 任意のホストビューに移動します。
2. ホストビューに応じて、1 つまたは複数のホスト、プリンタードライバー、またはキューを選択し、**[ホスト]** > **[プリンター設定]** に進みます。

   ホストのプリンタードライバーを管理するには、ホストコンピューターに接続している必要があります。

   該当する場合、ホストコンピューターにある 1 つまたは複数のプリンタードライバーを選択し、**[次へ]** を選択します。
3. 各ホストのデバイス設定を確認します。
   - 「選択されたプリンターモデル」で、各項目を選択して設定を編集します。
   - .kvp ファイルから構成設定を追加するには、**[インポート]** を選択します。
   - 現在の構成設定を .kvp ファイルに保存するには、**[エクスポート]** を選択します。
4. **[次へ]** を選択し、設定を確認します。
5. 設定を適用するには、**[完了]** を選択します。

6 結果を確認します。

- 必要に応じて、すべての問題を解決し、プロセスを繰り返します。
- .txt ファイルに結果を保存するには、**[エクスポート]** を選択します。
- **[OK]** を選択します。

お問い合わせは下記リンクをご確認ください。
https://www.kyoceradocumentsolutions.co.jp/inquiry/

© 2026 KYOCERA Document Solutions Inc.
京セラロゴは京セラ株式会社の登録商標です。